

# 時課經大齋用 実践用 目次

早課	2
第一時課	25
第三時課	34
第六時課	44
第九時課	52
聖體禮儀代式	62
晚課	70
晩堂大課	84

大阪ハリストス正教会二〇一六

# 早 課

司祭 我等の神は崇讃めらる、今も何時も世々に

誦經 「アミン」。

我等の神や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

天の王 慰る者や、眞實の神在らざる所なき者満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者  
生命を賜ふの主や、來りて我等の中に居り我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等  
の靈を救ひ給へ。

## 【聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。 三次  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖  
なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主 憐めよ。 三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司 祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦 經 「アミン」。

主 憐めよ。 十二次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に「アミン」

來れ我等の王神に叩拜せん。 叩拜一次

來れハリストス我等の王神に叩拜俯伏せん。 叩拜一次

來れハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。 叩拜一次

続いて、第十九、二十聖詠を静かにゆっくり読む。この間に司祭が宝座、聖堂内のイコンに炉儀を行うため。

第十九聖詠

願はくは主は憂の日に於て爾に聴き、イヤコフの神の名は爾を扞ぎ衛らん。願はくは聖所より助を爾に遣し、シオンより爾を固めん。願わくは爾が悉くの獻物を記憶し、爾の燔祭を肥えたる物とせん。願はくは主は爾の心に循ひて爾に與へ、爾の謀る所を悉く遂げしめん。我等は爾の救を喜び、吾が神の名に依りて旌を揚げん。願はくは主は爾が悉くの願を成就せしめん。今我が其膏つけられし者を救ふを知れり、彼は聖天より其救の右の手の力を以て之に對ふ。或は車を以て、或は馬を以て誇る者あり。唯我等は主我が神の名を以て誇る。彼等は動きて顛れ、唯我等は起きて直く立つ。主よ、王を救へ、又我等が爾に呼ばん時、我等に聴き給へ。

第二十聖詠

主よ、王は爾の力を樂しみ、爾の救を歡ぶこと極なし。其心に望む所は、爾之を與へ、其口に求むる所は爾之を辭まざりき。蓋爾は仁慈の祝福を以て彼を逐へ、純金の冠を其首に冠らせり。彼生命を爾に求めしに、爾之に世世の壽を賜えり。彼の榮は爾の救を以て大なり、爾は尊榮と威嚴とを之に被らせたり。爾は彼に祝福を世世に賜ひ、爾が顔の歡にて彼を樂ませたり。蓋王は主を頼み、至上者の仁慈に因りて動かざらん。爾の手は爾が悉くの敵を尋ね出し、爾の右の手は凡そ爾を憎

む者ものを尋ね出たずさん。爾怒なんじいかる時とき、彼等かれらを火爐かろの如ごとくなさん。主しゅは其怒そのいかりに於おいて彼等かれらを滅ほろし、火  
は彼等かれらを嚙かまん。爾なんじは彼等かれらの果みを地ちより絶たち、彼等かれらの種たねを人ひとの子この中うちより絶たたん、蓋けだし彼等  
は爾なんじに向むかひて悪事あくじを企くわだて、謀はかりごとを設もうけたれども、之これを遂とぐるあたること能あたわざりき。爾彼等  
を立てたてて的まととなし。爾なんじの弓ゆみを以もつて矢やを其面そのおもてに發はなたん。主しゅよ、爾なんじの力ちからを以もつて自らみずか擧あがれ、  
我等われらは爾なんじの權能けんのうを歌頌讚榮かししょうさんえいせん。  
光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに、「アミン」。

【聖三祝文、至聖三者、天主經】（『大斎第一週奉事式略』では省略）

聖せいなる神かみ、聖せいなる勇毅ゆうぎ、聖せいなる常生じようせいの者ものよ、我等われらを憐あわれめよ。三次

光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに、「アミン」。

至聖しせい三者さんしやよ、我等われらを憐あわれめ、主しゅよ、我等われらの罪つみを潔いさぎよくせよ、主宰しゅさいよ、我等われらの愆あやまちを赦ゆるせ、

聖せいなる者ものよ、臨のぞみて我等われらの病やまいを癒いやし給たまへ、悉ことごとく爾なんじの名なに因よる。

主憐しゅあわれめよ。三次

光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに、「アミン」。

天てんに在います我等われらの父ちちよ、願ねがはくは爾なんじの名なは聖せいとせられ、爾なんじの國くには來きたり、爾なんじの旨むねは天てん

に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に  
債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等  
を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

【讀詞】

主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が國に福を与え、爾の十字架にて爾  
の住所を護り給へ。

光榮は父と子と聖神に歸す。

甘んじて十字架に擧げられしハリストス神よ、爾が同名の新なる住所に爾の恵を垂れ  
給へ、爾の力を以て「我が國を司る者を」樂しませ、其諸敵に勝たしめ給へ、彼は爾  
が和平の武器、勝たれぬ勝を以て其助とすればなり。

今も何時も世世に、「アミン」。

威嚴にして耻を得しめざる轉達、至善にして讚榮せらるる生神女よ、我等の祈禱を斥け  
ず、正教の人の住所を固め、「我が國を司どるもの」を救ひて、天より勝利を與へ給へ、

ひとりおんちよう  
獨 恩寵に満たさるる者よ、爾神を生みたればなり。

【連禱】

司祭 神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐め、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

詠隊 主憐めよ。 三次

司祭 又吾が国の天皇及び国を司る者の爲に祈る。

司祭 又教會を司る○○の主教○○の爲に祈る。

司祭 又衆兄弟及び衆「ハリストイアニン」の爲に祈る。

司祭 蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等爾父と子と聖神に光榮を歸す、今も何時

も世世に。

詠隊 「アミン」。 神父よ、主の名を以て祝讚せよ。

司祭 光榮は一性にして生命を施す分れざる聖二者に歸す、今も何時も世世に。

詠隊 「アミン」。

【六段の聖詠】

誦經者は謹んで次の「六段の聖詠」を誦する。衆人は真剣に聞く。

誦經 至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人には恵臨めり。 三次

主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げんとす。 二次

第三聖詠

主よ、我が敵は何ぞ多き、多くの者は我を攻む、多くの者は、我が靈を指して彼は神より救を得ずと云ふ、然れども主よ、爾は我を衛る盾なり、我の榮なり。爾は我が首を擧ぐ、我が聲を以て主に呼ぶに、主は其の聖山より、我に聴き給う。我臥し眠り、又覺む、蓋主は我を扞ぎ衛ればなり。環りて我を攻むるの萬民は我懼るるなし。主や起てよ、吾が神や、我を救ひ給え。爾は我が諸敵の頬を打ち、悪人の齒を折けり。救は主に依る。爾の降福は爾の民に在り。

我臥し、寝ね、又覺む、主は我を扞ぎ衛ればなり。

第三十七聖詠

主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する母れ、蓋爾の矢は我に刺さり、爾の手は重く我に加わる。爾の怒に依りて我が肉に傷まざる所なく、我の罪に因りて我が骨は安きを得ず、蓋我が不法は我が首に溢れ、重任の如く我を壓す、我の無智に依り我が傷腐れて且臭し。我屈まりて仆れんとし、終日憂ひて行く、蓋我が腰は熱に悩まされ、我が肉に傷まざる所なし。我力衰えて痛く憊れ、我が心の裂くるによりて號ぶ。主よ、我が悉くの願は爾の前に在り、我が歎息は爾に隠るるなし。我が心は戦ひ栗き、我が力は我より脱け、我が目の光も已に我にあるなし。我が朋と親しき者

とは我が傷を見て離れ、我が親戚は遠ざかりて立つ。我が生命を覓むる者は網を設け、我を害わんと欲する者は我が滅亡のことを言ひて、毎日悪しき謀を圖む、然れども我は聾の如く聽かず、啞の如く己の口を啓かず、是に於て我は聞かなく、其口に答ふる所なき人の如くなれり、蓋主よ、我爾を恃む、主我が神よ、爾に聽き給はん。我言えり、願はくは敵は我に勝たざらん、我が足の跌く時、彼等は我に向ひて誇り高ぶる。我殆ど仆れんとす、我の憂は常に我が前に在り。我は我が不法を認め、我が罪の爲に甚哀しむ。我が敵は生きて愈強く、故なくして我を疾む者は益多し、悪を以て我の善に報ゆる者は、我が善に従ふに因りて我の敵となれり。主我が神よ、我を遺つる母れ、我に遠ざかる母れ、主我の救主よ、速に來たりて我を救ひ給へ。

### 第六十二聖詠

神よ、爾は我の神なり。我暁より爾に尋ぬ、我が靈は渴きて爾を望み、我が身は空しくして燥ける水なき地にありて、痛く爾を慕ふ、爾の能力と爾の光榮とを見ん爲なり、我が嘗て爾を聖所に觀しが如し、蓋爾の愛憐は生命に愈る。我が口爾を讚美せん。是くの如く我生ける時爾を崇め讚め、爾の名に依りて我が手を擧げん。我が靈の飽かざること油脂を以てするが如く、我が口歡の聲にて爾を讚美す、榻にて爾を記憶し、夜更に爾を思ふ時に在り。蓋爾は我の扶助なり、爾が翼の蔭に於て我欣ばん、我が

靈たましいは親したしく爾なんじに附つき、爾なんじの右みぎの手ては我われを扶たすく。彼かの我わが靈たましいを害そこなはんことを謀はかる者ものは地ちの深ふかき處ところに降くだらん、彼等かれら刃やいばに櫻かかりて、狐きつねの獲物えものとならん。惟王ただおうは神かみの爲ために樂たのしまん、凡およそ彼かれを以もつて誓ちかう者ものは譽ほまれを得えん、蓋けだしい謊つわりを言いう者ものの口くちは塞ふさがれんとす。夜更やこうに爾なんじを思おもふ、蓋けだし爾なんじは我われの扶助たすけなり、爾なんじが翼つばさの蔭かげに於おいて我われ欣よろこばん、我わが靈たましいは親したしく爾なんじに附つき、爾なんじの右みぎの手ては我われを扶たすく。

光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに、「アミン」。

「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」、神かみよ、光榮こうえいは爾なんじに歸きす。三次

主憐しゅあわれめよ。三次

光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに、「アミン」。

是の時司祭至聖所アルタリより出て王門の前に立ちて早課祝文を黙誦。

### 第八十七聖詠

主我しゅわが救すくいの神かみよ、我晝夜爾われちゅうやなんじの前に呼よぶ、願ねがはくは我わが禱いのりは爾なんじが顔かんばせの前に至まらん、爾なんじの耳みみを我わが願ねがいに傾かたぶけよ、蓋けだし我わが靈たましいは苦難くなんに飽あき、我わが生命いのちは地獄じごくに近ちかづけり。我われは墓はかに入る者いと等ひとしくなり、力ちからなき人の如ごとくなれり、死人しにんの中に投なげられて、猶殺なおころされて柩ひつぎに臥ふし、爾なんじに復記憶またきおくせられず、爾なんじの手てより絶たたれし者ものの如ごとし。爾我なんじわれを深ふかき坎あなに、闇冥くらやみに、淵ふちに置おけり。爾なんじの憤いきどおりは重おもく我われに加くわはり、爾なんじの波なみを傾かたぶけて我われを撃うてり。爾我なんじわが識し

る所の者を我より遠ざけ、我を彼等の悪むべき者となせり、我閉されて出ざるを得ず。  
我が目は愁苦に因りて痛く疲れたり、主よ、我終日爾を呼び、手を伸べて爾に向へり。  
爾豈死せし者に奇跡を施さんや、死せし者豈起ちて爾を讃揚せんや、爾の憐は墓の  
中に、爾の眞は腐敗の地に、豈傳へられんや、爾の奇跡は闇冥に、爾の義は遺忘の地  
に、豈識られんや。主よ、我爾に呼ぶ、私の禱は晨に爾の前に在り。主よ、爾は何爲  
れぞ我が靈を棄て、爾の顔を我に隠し給ふ。我少きより禍に遭い、幾ど消え亡せ  
んとし、爾の恐嚇を受けて我が疲は極れり。爾の憤は我を度り、爾の恐嚇は我を碎  
けり、毎日水の如くに我を環り、齊しく集りて我を圍む。爾は我が友と親しき者とを我  
より遠ざけたり、我が識る所の者は見えぬ。  
主我が救の神よ、我晝夜爾の前に呼ぶ。  
願はくは我が禱は爾が顔の前に至らん、爾の耳を我が願に傾けよ。

### 第二百一聖詠

我が靈よ、主を讃め揚げよ、我が中心よ、其聖なる名を讃め揚げよ。我が靈よ、主  
を讃め揚げよ、彼が悉くの恩を忘るる母れ。彼は爾が諸の不法を赦し、爾が諸の  
疾を療す、爾の生命を墓より救ひ、憐と恵とを爾に冠らせ、幸福を爾の望に飽  
かしむ、爾が若復さるること驚の如し。主は凡そ迫害せらるる者の爲に義と審判とを行

ふ。彼は己の途をモイセイに示し、己の作爲をイスライリの諸子に示せり。主は宏慈にして矜恤、寛忍にして鴻恩なり、怒りて終あり、憤を永く懷かず。我が不法に因りて我等に行はず、我が罪に因りて我等に報いず、蓋天の地より高きが如く、斯く主を畏るる者に於ける其憐は大なり、東の西より遠きが如く、斯く主は我が不法を我等より遠ざけたり、父の其子を憐むが如く、斯く主は彼を畏るる者を憐む。蓋彼は我が何より造られしを知り、我等の塵なるを記念す。人の日は草の如く、其榮ゆること田の華の如し。風之を過ぐれば無に歸し、其有りし處も亦之を識らず。唯主の憐は彼を畏るる者に世より世に至り、彼の義は其約を守り、其誠を懷ひて、之を行ふ子孫孫に及ばん。主は其寶座を天に建て、其國は萬物を統べ治む。主の諸の天使、能力を具へ、其聲に遵ひて其言を行ふ者よ、主を讃め揚げよ。主の悉くの軍、其旨を行ふ役者よ、主を讃め揚げよ。主の悉くの造工よ、其一切治むる處に於て主を讃め揚げよ。我が靈よ、主を讃め揚げよ。其一切治むる處に於て、我が靈よ、主を讃め揚げよ。

第四百十二聖詠

主よ、我が禱を聆き、爾の眞實に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聽き給へ。爾の僕と訟を爲す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざ

らん。敵は我が靈を逐ひ、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が靈は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想ひ、凡そ爾の行ひしことを考へ、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向ひ、我が靈は渴ける地の如く爾を慕ふ。主よ、速に我に聴き給へ、我が靈は衰へたり、爾の顔を我に隠す母れ、然からずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給へ、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給へ、我が靈を爾に擧ぐればなり。主よ、我を我が敵より救ひ給へ、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行ふを教へ給へ、爾は我の神なればなり、願はくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給へ、爾の義に依りて我が靈を苦難より引き出し給へ、爾の憐を以て我が敵を滅し、凡そ我が靈を攻むる者を夷げ給へ、我は爾の僕なればなり。

主よ、爾の義に依りて我に聴き給へ、爾の僕と訟を爲す母れ。

主よ、爾の義に依りて我に聴き給へ、爾の僕と訟を爲す母れ。

願はくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」、神よ、光榮は爾に歸す。三次

【天連禱】

「アリルイヤ」大斎平日には「主は神なり」の代わりに、その日の調で「アリルイヤ」を3回歌う。以下の句をアリルイヤに挿入して誦する。

第一句 神よ、我が神度は夜中より、爾を慕ふ、蓋爾の誠めは地に在りてなり。

第二句 地に居る者は義を學べ。

第三句 火は爾の敵を嚙ん。  
(☆イサイヤ26…11だが、句の前半「嫉妬は教えられぬ民を掴む」が欠落)

第四句 主よ、彼らに艱難を加へ、地の驕れる者に艱難を加へよ。

(☆訳文は『連接歌集』のイサイヤ26…9,19による)

【聖三讃詞】その週の調でを1回ずつ歌う。(八調経卷末参照)『大斎第一週奉事式略』では一調のみ、他の調は卷末参照)

聖三の讃歌、第一調

我等無形の軍の有形の象を以て、形より上なる屬神の意思に升せられ、聖三の歌に由りて三位の神性の光を受けて、ヘルワイムの如く惟一の神に呼ばん、聖、聖、聖なる哉吾が神や、

月曜日には、爾の無形軍の轉達に因りて我等を憐み給へ。

火曜日には、爾の前驅の祈禱に因りて我等を憐み給へ。

水曜日及び金曜日には、主よ、爾の十字架の力にて我等を護り給へ。

木曜日には、爾なんじの聖使徒せいしと及び成聖者せいせいしやニコライの祈禱きとうに因りて我等われらを憐みあわれ給へ。

光栄は父と子と聖神に帰す

我等われら衆天軍しゅうてんぐんと偕ともに最高いとたかきに居おる者ものに聖三せいさんの讚美さんびを奉りて、ヘルワイムの如く呼ば  
ん、聖せい、聖せい、聖せいなる哉吾かなわが神かみや、爾なんじの諸聖人しよせいじんの祈禱きとうに因りて我等われらを憐みあわれ給へ。

今も何時も世々にアミン

至善者しぜんしやよ、我等われら寤おめ興おきて爾なんじに伏拜ふくはいす、全能者ぜんんのうしやよ、天使てんしの歌うたを以て爾なんじに呼よぶ、聖せい、聖せい、  
聖せいなる哉神かなかみや、生神女しやうしんじよに因りて我等われらを憐みあわれ給へ。

## 日替わり↓別冊

【カフィズマ】続いて、『聖詠經』からその日のカフィズマを三段に分けて読み  
各段ごとに「光栄は」「今も」「アリルイヤ」「主憐れめよ」「光栄は」

月曜日 四、五、六（『大斎第一週奉事式略』では各段の聖詠一つのみ記載）

火曜日 十、十一、十二

水曜日 十九、二十、一

木曜日 六、七、八

金曜日 十三、十四、十五

続けてセダレン

【第五十聖詠】

神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法を抹し給へ。屢我を我が不法より洗ひ、我を我が罪より清め給へ、蓋我は我が不法を知る、我の罪は常に我が前に在り。我は爾獨爾に罪を犯し、悪を爾の目の前に行へり、爾は爾の審断に義にして、爾の裁判に公なり。視よ、我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に眞實のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。「イツソプ」を以て我に沃げ、然せば我潔くならん、我を滌へ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かせ給へ、然せば爾に折られし骨は悦ばん。爾の顔を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給へ。神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を我の衷に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我より取り上ぐること母れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給へ。我不法の者に爾の道を教へん、不虔の者は爾に歸らんとす。神よ、我が救の神よ、我を血より救ひ給へ、然せば我が舌は爾の義を讚め揚げん。主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げん、蓋爾は祭を欲せず、欲すれば我之を獻らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なる心は、神よ、爾輕んじ給はず。主よ、爾の恵に因りて恩をシオンに垂れ、イエルサリムの城垣を建て給へ。其時に爾義の祭、

ささげもの 献物と燔祭とを喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠へんとす。  
輔祭「主よ爾の民を救い」

(詠)「主憐れめよ」十二回、

日替わり↓別冊

【規程】(本来はその日の月課経のカノンと合わせて行う)『運接歌集』の「預言者の歌」に挿入して行う。

月曜日 第一、(小連禱) 第八、(ヘルビムより尊く) 第九歌頌、(常に福) (小連禱)  
火曜日 第二、(小連禱) 第八、(ヘルビムより尊く) 第九歌頌、(常に福) (小連禱)  
水曜日 第三、(小連禱) 第八、(ヘルビムより尊く) 第九歌頌、(常に福) (小連禱)  
木曜日 第四、(小連禱) 第八、(ヘルビムより尊く) 第九歌頌、(常に福) (小連禱)  
金曜日 第五、(小連禱) 第八、(ヘルビムより尊く) 第九歌頌、(常に福) (小連禱)

カノンが終わったら、次の讃歌を歌ふ。

常に福にして全く玷なき生神女、吾が神の母なる爾を福なりと稱ふるは眞に當れり、ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく榮え、貞操を壊らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讃む。

【小連禱】

【差遣詞】（または光耀歌）（「大斎第一週」では一調のみ記載。他の調は別冊）

第一調

主よ、光を耀かし、……………

※光耀歌の中に左の詞を挿入する。※第一句は曜日によって異なる。

月曜日に、爾の無形の者の轉達に因りて、

火曜日に、爾の前驅の祈禱に因りて、主よ、

水曜日及び金曜日に、爾の十字架の力にて、主よ、

木曜日に、爾の諸使徒、及び成聖者ニコライの祈禱に因りて、主よ、

我が靈を諸の罪より浄めて、我を救ひ給へ。

光榮は父と子と聖神に帰す

主よ、光を耀かし、爾の諸聖人の祈禱に因りて主よ、我が靈を諸の罪より浄めて、我を救ひ給へ。

今も何時も世々にアミン

主よ、光を耀かし、生神女の祈禱に因りて、主よ、我が靈を諸の罪より浄めて、我を救ひ給へ。

【讚揚歌】

第四百四十八聖詠

天より主を讚揚げよ、至高きに彼を讚揚げよ。讚歌は爾神に歸す。其悉くの天使よ、彼を讚め揚げよ、其悉くの軍よ、彼を讚め揚げよ、讚歌は爾神に歸す。日と月よ、彼を讚め揚げよ、悉くの光る星よ、彼を讚め揚げよ。諸天の天と天より上なる水よ、彼を讚め揚げよ。主の名を讚め揚ぐべし、蓋彼言ひたれば、即成り、命じたれば、即造られたり、彼は之を立てて世世に至らしめ、則を與へて之を踰えざらしめん。地より主を讚め揚げよ、大魚と悉くの淵、火と霰、雪と霧、主の言に従ふ暴風、山と悉くの陵、果の樹と悉くの柏香木、野獸と諸の家畜、匍ふ物と飛ぶ鳥、地の諸王と萬民、牧伯と地の諸有司、少年と處女、翁と童は、主の名を讚め揚ぐべし、蓋惟其名は高く擧げられ、其光榮は天地に徧し。彼は其民の角を高くし、其諸聖人、イズライリの諸子、彼に親しき民の榮を高くせり。

第四百四十九聖詠

新たなる歌を主に歌えよ、其讚美は聖者の會に在り。イズライリは己の造成、主の爲に樂むべし、シオンの諸子は己の王の爲に喜ぶべし。舞を以て彼の名を讚め揚げ、鼓と琴を以て彼に歌ふべし、蓋主は其民を恵み、救を以て謙卑の者を榮えしむ。諸聖人は光榮

に在りて祝ひ、其榻に在て歡ぶべし。其口には神の讚榮あり、其手には両刃の劍あるべし、仇を諸民に報い、罰を諸族に行ひ、其諸王を索にて縛り、其諸侯を鐵の鎖にて繋ぎ、彼等の爲に記されし審判を行はん為なり。斯の榮えは其悉の聖人に在り。

第百五十聖詠

神を其聖所に讚め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讚揚げよ。其權能に依て彼を讚揚げよ、其至と嚴かなるに依て彼を讚揚げよ。角の聲を以て彼を讚揚げよ、琴と瑟を以て彼を讚揚げよ。鼓と舞を以て彼を讚揚げよ、絃と簫を以て彼を讚揚げよ。和聲の鉦を以て彼を讚揚げよ、大聲の鉦を以て彼を讚揚げよ。凡そ呼吸ある者は主を讚揚げよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

主我等の神よ、光榮は爾に歸す、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、「アミン」。

光榮は爾我等に光を顯しし主に歸す。

至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人には恵臨めり。主天の王神父全能者よ、主獨生の子イイススハリストス、及び聖神よ、爾の大なる光榮に因りて、我等爾を崇め、爾を讚め揚げ、爾を伏し拜み、爾を尊み歌ひ、爾に感謝す。主神よ、神の羔、父

の子、世の罪を任ひし者よ、我等を憐み給へ、世の諸の罪を任ひし者よ、我等の憐を納れ給へ。父の右に坐する者よ、我等を憐み給へ。爾は獨聖なり、爾は獨主イイススハリストス、神父の光榮を顯す者なればなり、「アミン」。

我日日に爾を讃め揚げ、爾の名を世世に崇め歌はん。

主よ、爾は世世我等の避所たり。

我曾て言へり、主よ、我を憐み、我が靈を醫し給へ、我罪を爾に得たればなり。主よ、爾に趨り附く、爾の旨を行ふを我に教へ給へ、爾は我の神、生命の源は爾に在ればなり、我等爾の光に於て光を觀ん。憐を爾を知る者に恒に垂れ給へ。

続いて

主よ、我等を守り、罪なくして此の日を度らせ給へ。主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、爾の名は世世に尊み歌はる、「アミン」。

主よ、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給へ。主よ爾は崇め讃めらる。爾の誠を我に訓へ給へ。主宰よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に悟らせ給へ。聖なる者よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠にて我を照し給へ。

主よ、爾の憐は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ。讃は爾に歸し、歌は爾に歸し、光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

【増連禱】

輔祭 我等の朝の禱を増して主に献らん・・・

日替わり↓別冊

【挿句ステイヒラ】を誦する。そのとき付加する句は以下の通り。挿句は『ステイヒラ』が先、続いて句を読む。『三歌斎経』

「光荣」『今も』に続くステイヒラが記載されている場合は指示に従って誦し、続いて以下の通り『至上者よ』に続く。

至上者よ、主を讚榮し、爾の名に歌ひ、爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉。

聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光荣は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

【讚詞】

生神女、天の門よ、我等爾が光榮の堂に立つに、意は天に立つが如し、祈る、我等の爲に爾が憐の門を開き給へ。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフイムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讚む。

神父よ、主の名を以て祝讚せよ。

司祭 永在の主ハリストス我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、「アミン」。  
誦經 天の王よ、「我が国」を佑け、正教を固め、異教を順はせ、世界を穩にし、克く此の聖堂を護り、已に過ぎ去りし我等の諸父兄弟を義人の住居に置き、並に我等の痛悔と承認とを納れ給へ、爾は仁慈にして人を愛する主なればなり。

【聖エフレムの祝文】

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次  
貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次  
嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、  
「アミン」。叩拜一次

又躬拜すること十二次、每次黙誦して曰く、  
神よ、我罪人を淨め給へ。

又誦す、

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。  
貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。  
嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、  
「アミン」。叩拜一次

# 第一時課

來れ、我等の王・神に叩拜せん。  
來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。  
來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

## 第五聖詠

主よ、我が言を聴き、我が思を悟れ。我が王我が神よ、我が呼ぶ聲を聴き納れ給へ、我爾に祈ればなり。主よ、晨に我が聲を聴き給へ、我晨に爾の前に立ちて待たん。蓋爾は不法を喜ばざる神なり、悪人は爾に居るを得ず、不虔の者は爾が目の前に止まらざらん、爾は凡そ不法を行ふ者を憎む、爾は謊を言ふ者を滅さん、残忍詭譎の者は主之を悪む。惟我爾が憐の多きに倚りて爾の家に入り、爾を畏れて爾が聖堂に伏拜せん。主よ、我が敵の爲に我を爾の義に導き、我が前に爾の道を平にせよ。蓋彼等の口には眞實なく、彼等の心は悪逆、彼等の喉は開けたる柩、其舌にて媚び諂ふ。神よ、彼等の罪を定め、彼等をして其謀を以て自ら敗れしめ、彼等が不虔の甚しきに依りて之を逐い給へ、彼等爾に逆らえばなり。凡そ爾を頼む者は喜びて永く樂しみ、爾は彼等を庇ひ護らん、爾の名を愛する者は爾を以て自ら詔らんとす。蓋主よ、爾は義人に福

を降し、恵を以て盾の如く彼を環らし衛ればなり。

### 第八十九聖詠

主よ、爾は世世に我等の避所たり。山未だ生ぜず、爾未だ地と全世界とを造らざる先、且世より世までも爾は神なり。爾人を塵に歸らしめて曰う、人の子よ、歸れと。蓋爾が目の前には、千年は過ぎし昨日の如く、夜間の更の如し。爾は大水の如く彼等を流す、彼等は夢の如く、朝に生ふる草の如し、朝には花さきて且青し、暮には刈られて稿る。蓋我等は爾の怒に因りて消え、爾の憤に因りて惶れ惑ふ。爾は我等の不法を爾の前に置き、我等の隠れたる事を爾が顔の光の前に置き。我等が悉くの日は爾が怒の中に過ぎ、我等は我が年を失ふこと音の如し。我が年の數は七十年、或は健なれば八十年なり、其間の壮なる時も、劬勞と疾病あり、蓋其過ぐることに速にして、我等飛び去る。誰か爾が怒の力を知り、又爾を畏るる度に依りて爾の憤を識らん。願はくは我等に我が日を算ふることを教へて、智慧の心を獲しめ給へ。主よ、面を回せ、何の時に至るか、爾の僕を憐み給へ。夙に爾の憐を以て我等に飽かしめよ、然せば我等生涯歡び樂しまん。爾我等を撲ちし日、我等が禍に遭ひし年に代えて、我等を樂しましめ給へ。願はくは爾の工作は爾の諸僕に著れ、爾の光榮は其諸子に著れん、願はくは主吾が神の恵は我等に在らん、願はくは我が手の工作を我等に助け給へ、我が手

の工作を助け給へ。

第百聖詠

我<sup>われ</sup>憐<sup>あわれ</sup>みと審判<sup>しんぱん</sup>とを歌<sup>うた</sup>はん、主<sup>しゅ</sup>よ、爾<sup>なんじ</sup>に歌<sup>うた</sup>を奉<sup>たてまつ</sup>らん。我<sup>われ</sup>玷<sup>きず</sup>なき道<sup>みち</sup>を思<sup>おも</sup>はん、爾<sup>なんじ</sup>何<sup>とき</sup>の時<sup>われ</sup>我<sup>われ</sup>に至<sup>いた</sup>るか、我<sup>われ</sup>玷<sup>きず</sup>なき心<sup>こころ</sup>を以<sup>もつ</sup>て我<sup>わ</sup>が家<sup>いえ</sup>の中<sup>うち</sup>を行<sup>ゆ</sup>かん。我<sup>わ</sup>が目<sup>め</sup>の前<sup>まえ</sup>には邪<sup>よこしま</sup>なる物<sup>もの</sup>を置<sup>お</sup>かざらん、法<sup>ほう</sup>に背<sup>そむ</sup>く行<sup>おこな</sup>いは我<sup>われ</sup>之<sup>これ</sup>を疾<sup>にく</sup>む、其<sup>そ</sup>れ必<sup>かならず</sup>我<sup>われ</sup>に附<sup>つ</sup>かざらん。壊<sup>やぶ</sup>れし心<sup>こころ</sup>は我<sup>われ</sup>に遠<sup>とお</sup>ざかり、悪<sup>あ</sup>しき者<sup>もの</sup>は我<sup>われ</sup>之<sup>これ</sup>を識<sup>し</sup>らざらん。隱<sup>ひそか</sup>に己<sup>おのれ</sup>の隣<sup>となり</sup>を謗<sup>そし</sup>る者<sup>もの</sup>は我<sup>われ</sup>之<sup>これ</sup>を逐<sup>お</sup>ひ、目<sup>め</sup>傲<sup>おご</sup>り、心<sup>こころ</sup>高<sup>たか</sup>ぶる者<sup>もの</sup>は我<sup>われ</sup>之<sup>これ</sup>を容<sup>い</sup>れざらん。我<sup>わ</sup>が目<sup>め</sup>は斯<sup>こ</sup>の地<sup>ち</sup>の忠<sup>まこと</sup>信<sup>こと</sup>なる者<sup>もの</sup>を顧<sup>かえり</sup>みて、彼<sup>かれ</sup>等<sup>ら</sup>を我<sup>わ</sup>が傍<sup>かたわら</sup>に居<sup>お</sup>らしめん、玷<sup>きず</sup>なき道<sup>みち</sup>を行<sup>ゆ</sup>く者<sup>もの</sup>は我<sup>われ</sup>に事<sup>つか</sup>えん。貳<sup>ふた</sup>心<sup>こころ</sup>を行<sup>おこな</sup>ふ者<sup>もの</sup>は我<sup>わ</sup>が家<sup>いえ</sup>に居<sup>お</sup>るを得<sup>え</sup>ず、謊<sup>いつわり</sup>を言<sup>い</sup>ふ者<sup>もの</sup>は我<sup>わ</sup>が目<sup>め</sup>の前<sup>まえ</sup>に止<sup>とど</sup>まらざらん。晨<sup>あした</sup>に我<sup>われ</sup>此<sup>こ</sup>の地<sup>ち</sup>の悉<sup>ことごと</sup>くの不<sup>ふ</sup>虔<sup>けん</sup>者<sup>しや</sup>を滅<sup>ほろ</sup>ぼして、凡<sup>およ</sup>そ不<sup>ふ</sup>法<sup>ほう</sup>を行<sup>おこな</sup>ふ者<sup>もの</sup>を主<sup>しゅ</sup>の城<sup>まち</sup>より絶<sup>た</sup>たれしめん。

光榮<sup>こうえい</sup>は父<sup>ちち</sup>と子<sup>こ</sup>と聖神<sup>せいしん</sup>に歸<sup>き</sup>す、今<sup>いま</sup>も何<sup>いつ</sup>時<sup>つ</sup>も世<sup>よ</sup>世<sup>よ</sup>に、「アミン」。

「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」、神<sup>かみ</sup>よ、光榮<sup>こうえい</sup>は爾<sup>なんじ</sup>に歸<sup>き</sup>す。 三次

主<sup>しゅ</sup>憐<sup>あわれ</sup>めよ。 三次

司祭 【第一時課の讚詞】第六の調。

吾が王吾が神や、晨に我が聲を聴き給へ。(詠) 吾が王吾が神や…

第一句 主や、我が言を聴き我が思を悟れよ。(詠) 吾が王吾が神や…

第二句 主や、我爾に禱ればなり。(詠) 吾が王吾が神や…

光榮は父と子と聖神に歸す。

誦經 今も何時も世世に、「アミン」。

【生神女讚詞】

嗚呼恩寵に満たさるる者よ、我等何を以て爾を稱せんか、天とせん、爾義の日を照し  
たればなり、樂園とせん、爾枯れざる花を開きたればなり、童貞女とせん、爾貞操を壊  
らざればなり、淨き母とせん、爾聖なる懷に萬物の神たる子を抱きたればなり、彼に  
我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

【讚詞】歌う。

我が足を爾の言に固め給へ、諸の不法の我を制するを許す母れ。我を人の迫害より救  
ひ給へ、然せば我爾の命を守らん。爾が顔の光にて爾の僕を照し、爾の律を我に誨

へ給へ。主よ、願はくは我が口は讚美に満てられて、我爾の光榮を歌ひ、日に爾の威嚴を歌はん。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者をわれら免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

「アミン」

大齋は以下の【生神女讃詞】を誦する。

月火木曜日には

我等われら黙もださず心こころと口くちにて聖せいなる天使てんしよりも聖せいにして、至いたりて光榮こうえいなる神かみの母ははを歌うたひ、之これを承うけ認みとめて生神女しょうしんじよと爲なす、其その實じつに人體じんたいを取りし神かみを生うみて、恒つねに我等われらの靈たましいの爲ために禱いのり給たまへばなり。

水金曜日には

ハリストス吾わが神かみよ、疾とく先さきんじて、爾なんじを誹そしり、我等われらを阻はばめる敵てきの我等われらを擄とりこにするを許ゆるす勿なかれ、獨ひとり人を愛あいする主しゆよ、生神女しょうしんじよの祈きとう禱よに依よりて、爾なんじの十字架じゆうじかを以もつて、我等われらと戦たたかふ敵てきを亡ほろぼし、彼等かれらに正教せいきやうの者ものの信しんが如何いかなる能ちからあるを悟さとらしめ給たまへ。

主しゆ憐あわれめよ。四十次(二二回)

何いずれの日ひ何いずれの時ときにも、天てんにも地ちにも叩拜こうはい讚榮さんえいせられ、寛忍かんにん、鴻慈こうじ、至善しぜんにして、義人ぎじんを愛あいし、罪人ざいにんを憐あわれみ、來世らいせいの福ふくを約やくして、萬よろずの者ものを救すくいに招まねくハリストス神かみよ、爾なんじ主しゆよ、親みずから我わが此この時ときの禱いのちをも受うけ、我等われらの生命いのちを爾なんじの誠いましめに向むかはしめ給たまへ、我等われらの靈たましいを聖せい

にし、體からだを潔いさぎよくし、慮おもんばかりを直なおくし、思おもを淨きよくし、我等われらを悉ことごとくの憂うれいと禍わざわいと疾やまいよ  
り救すくひ、爾なんじの聖せいなる天使てんしを以もつて我等われらを環めぐり、我等われらが其そのかこみ圍まもに衛みちびり導みちびかれて、信しんの一いつなる  
と爾なんじの近ちかづき難がたき光榮こうえいを悟さとるに至いたらせ給たまへ、蓋けだしなんじ爾なんじは世よよ世よよに崇あがめ讚ほめらる、  
主しゅ憐あわれめよ。三次

光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世よよ世よよに、「アミン」。

ヘルワイムより尊とうとく、セラフイムに並ならびなく榮さかえ、貞操みさおを壊やぶらずして神言かみことばを生うみし實じつの  
生神女しょうしんじよたる爾なんじを崇あがめ讚ほむ。

神父しんぷよ、主しゅの名なを以もつて福ふくを降くだせ。

司祭かみ 神かみよ、我等われらに恩おんを被こうむらし、我等われらに福ふくを降くだし、爾なんじが顔かんばんせを以もつて我等われらを照てらし、並ならびに我等われら  
を憐あわれみ給たまへ。

誦經 「アミン」。

司祭 聖エフレムの祝文、

主しゅ吾わが生命いのちの主しゅ宰さいよ、怠惰おこたり、愁悶もだえと、陵駕しのぎと、空談むだごとの情こころを我われに與あたふる勿なかれ。叩拜一次

貞操みさおと、謙遜へりくだりと、忍耐にらえと、愛あいの情こころを我われ爾なんじの僕ぼくに與あたへ給たまへ。叩拜一次

嗚呼ああ主王しゅおうよ、我われに我わが罪つみを見み、我わが兄弟けいていを議ぎせざるを賜たまへ、蓋けだしなんじ爾なんじは世よよ世よよに崇あがめ讚ほめらる、  
「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。 躬拜すること十二次

主吾が生命の主幸よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。 叩拜一次

司祭(祝文)眞の光なるハリストス凡そ世に来る人を照し且つ聖にする者や、願は爾が顔の光は我等に輝き我等は是に依て近づき難き光を見るを得ん。願は爾が至浄の母と爾が諸聖人の祈祷に依て我等の足を爾の戒を行ふに向はしめ給へ。

「アミン」。

【生神女小讃詞】

(詠) 生神女よ、我等爾の僕婢は禍より援けられしを以て、爾克く勝つ将帥に凱歌と感謝とを奉る、勝たれぬ權能を有つに依りて、我等を諸の苦難より救ひ、爾を歌ひて嫁ならぬ嫁よ、慶べと呼ばしめ給へ。

司祭 ハリストス我等の恃みよ、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す

(詠) 光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす。今いまも何時いつも世々よよに「アミン」。

主しゅ憐あわれめよ。三さん次じ 福ふくを降くだせ

司祭發放詞

ハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母の祈禱と、無形なる尊き天軍、光榮にして讚美たる聖使徒、聖(某) 本堂及び本日聖人、聖にして義なる神の祖父母イオアキム及びアンナ、及び諸聖人の轉達に因りて、我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

(詠) アミン、ここで終了する場合は万寿詞

第三時課

司祭 我等の神は崇讃らる、今も何時も世々に。

誦經 「アミン」

我等の神や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

天の王慰る者や、眞實の神在らざる所なき者や、萬善の寶藏な

る者生命を賜ふの主や、來りて我等の中に居り我等を諸の穢より潔くせよ、

至善者や我等の靈を救ひ給へ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に「アミン」。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や、我等の愆を赦せ、聖

なる者や臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す。今も何時も世々に「アミン」。

天に在す我等の父や、願は爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に

行るるが如く地にも行はれん。我が日用の糧を今日我等に與へ給え。我等に債あ

る者を我等免すが如く我等の債を免し給へ。我等を誘に導かず、猶我等を凶悪

より救ひ給へ。

司祭 蓋國と権能と光榮は爾に世々に歸す。

誦經 「アミン」。

主憐めよ。 十二次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に。「アミン」。

一時課から続けて行う場合は、ここから

來れ我等の王神に叩拜せん。 叩拜一次

來れハリストス我等の王神に叩拜俯伏せん。 叩拜一次

來れハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。 叩拜一次

### 第十六聖詠

主よ、私の直を聴き、私の呼ぶを聆き納れ、偽なき口より出づる禱を受け給へ。願はくは我を糺す判は爾の顔より出で、爾の目は義に注がらん。爾は已に我が心を験し、夜中に臨み、我を試みて得たる所なし、我が口は私の思に離れず、人の行爲に於ては、我爾が口の言に循ひて、迫害者の途を慎めり。我が歩を爾の路に固めよ、我が足の蹶かざらん爲なり。神よ、我爾に籲ぶ、蓋爾我に聽かん。爾の耳を我に傾けて、

我が言を聆き給え。爾を頼む者を爾の右の手に敵する者より救ふの主よ、爾の妙なる  
憐を顯し給へ。我を眸子の如く護れ、爾が翼の蔭を以て、我を攻むる不虔者の面、我  
を環る我が靈の敵より我を覆ひ給え。彼等は己の脂に包まれ、己の口にて高ぶり言  
う。今我が歩む度に我等を環り、目に狙ひて、地に顛さんと欲す。彼等は獲物を貪る獅  
の如く、隠なる處に蹲る小獅の如し。主よ、起きよ、彼等に先だちて彼等を殪し、爾  
の劍を以て我が靈を不虔者より救へ、主よ、爾の手を以て人即世の人より救ひ給へ。  
彼等の業は今生にあり、爾は爾の寶藏より其腹を充たし、彼等の子は饜きて、餘を其裔  
に残さん。惟我は義を以て爾の顔を見んとす、覺め起きて爾の容を以て自ら饜き足  
らん。

## 第二十四聖詠

主よ、爾に我が靈を擧ぐ。吾が神よ、爾を恃む、我に世世愧なからしめよ、我が敵を我  
に勝ちて喜ばしむる母れ。凡そ爾を恃む者にも愧なからしめ給へ、妄りに法を犯す者  
は願はくは愧を得ん。主よ、我に爾の道を示し、我に爾の道を訓えよ。我を爾の眞理  
に導きて、我を訓へ給へ、蓋爾は我が救の神なり、我日日に爾を恃めり。主よ、爾  
の鴻恩と爾の慈憐とを記憶せよ、蓋是れ永遠よりあるなり。我が少き時の罪と過とを  
記憶する母れ、主よ、爾の仁慈に依り、爾の慈憐を以て、我を記憶せよ。主は仁なり、義

なり、故に罪人に道を訓へ示す、謙遜の者を義に導き、謙遜の者に己の道を教ふ。凡そ主の道は其約と其啓示とを守る者に在りて慈憐なり、眞實なり。主よ爾の名に因りて我が罪を許し給へ、其大なるを以てなり。誰か主を畏るる人たる、主は之に擇ぶべき道を示さん。彼の靈は福に居り、彼の裔は地を嗣がん。主の奥義は彼を畏るる者に属し、彼は其約を以て之に顯す。我が目常に主を仰ぐ、其我が足を網より出すに因る。我を顧み、我を憐め、我獨にして苦めらるるに因る。我が心の憂益多し、我が苦難より我を引き出せ、我が困苦、我が労瘁を顧み、我が諸の罪を赦し給へ。我が敵を觀よ、何ぞ多き、彼等が我を怨む恨みは何ぞ甚しき。我が靈を護りて我を救ひ、我が爾に於ける恃に愧なからしめ給へ。願はくは無玷と義とは我を護らん、我爾を待めばなり。神よ、イズライリを其諸の憂より救ひ給へ。

### 第五十聖詠

神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法を抹し給へ。屢我を我が不法より洗ひ、我を我が罪より清め給へ、蓋我は我が不法を知る、我の罪は常に我が前に在り。我は爾獨爾に罪を犯し、悪を爾の目の前に行へり、爾は爾の審断に義にして、爾の裁判に公なり。視よ、我は不法に於て生まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に眞實のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せ

り。「イツソプ」を以て我に沃げ、然せば我潔くならん、我を滌へ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かせ給へ、然せば爾に折られし骨は悦ばん。爾の顔を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給へ。神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を私の衷に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我より取り上ぐること母れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給へ。我不法の者に爾の道を教へん、不虔の者は爾に歸らんとす。神よ、我が救の神よ、我を血より救ひ給へ、然せば我が舌は爾の義を讚め揚げん。主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げん、蓋爾は祭を欲せず、欲すれば我之を獻らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なる心は、神よ、爾輕んじ給はず。主よ、爾の恵に因りて恩をシオンに垂れ、イエルサリムの城垣を建て給へ。其時に爾義の祭、獻物と燔祭とを喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠へんとす。光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

「アリライヤ」「アリライヤ」「アリライヤ」、神よ、光榮は爾に歸す。三次  
主憐めよ。三次

【本日讃詞】第六の調。

司祭

第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣はしし至善の主や、之を我等より取上ぐること勿れ。尚我等爾に祈る者の衷に之を新にせよ。(詠) 繰り返す

第一句 神や清潔き心を我に造り正直き靈を我の衷に改め給へ。(詠) 繰り返す。

第二句 我を爾の顔より逐ふこと勿れ。爾の聖神を我より取上ぐること勿れ。

(詠) 繰り返す

毎句の後「第三時に於て爾の至聖神云々」を歌う。歌う毎に叩拜一次。

光榮は父と子と聖神に歸す。

誦經 今も何時も世々に。「アミン」。

【生神女讃詞】

生神女よ、爾は實の葡萄の枝、我等の爲に生命の果を結びし者なり、女宰よ、爾に祈る、聖使徒と共に我が靈の憐を蒙らんことを祈り給へ。

主は日に崇め讃めらる。神は我等に重荷を負はすれども、亦我等を救ひ給ふ。神は我等

の爲に救の神なり。

【聖三祝文、至聖三者、天主經】（大齋第一週では脱落）

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。 三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。 三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

【コンダク（小讃詞）】

崇め讃めらるる哉ハリストス我等の神よ、爾は漁者に聖神を遣して智者と爲し、彼等を以て世界を漁し得たり。人を愛する主よ、光榮は爾に歸す。

光榮は父と子と聖神に歸す。

イイススよ、我等の靈の悶ゆる時、速にして眞なる慰を爾の諸僕に與へ給へ、憂の時我等の靈を離るる母れ、禍の時我等の心に遠ざかる勿れ、恒に我等を衛り給へ。我等に近づけ、在らざる所なき者よ、近づけよ、恩廣き者よ、常に爾の使徒と偕に在るが如く、我等爾を恃む者と偕にし、我等に同一にして爾を歌ひ、爾が至聖の神を讃榮せしめ給へ。

今も何時も世世に、「アミン」。

至淨なる生神女よ、爾は「ハリストイアニン」等の憑恃と轉達なり、避所と壞れざる城なり、弱れる者の爲に風なき湊なり、讃榮せらるる童貞女よ、爾は息めざる祈禱にて世を救ふ者なるを以て、我等をも記憶し給へ。

主憐めよ。四十次／一二次（第一週）

何の日何の時に、天にも地にも叩拜讃榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛

し、罪人を憐み、來世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、  
親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誠に向はしめ給へ、我等の靈を聖  
にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾よ  
り救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なる  
と爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。  
主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフイムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の  
生神女たる爾を崇め讃む。

神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 主イイススハリストス我等の神や、吾が諸聖神父の祈祷に依て我等を憐めよ。

誦經 「アミン」。

### 【聖エフレムの祝文】

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次  
貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。 躬拜すること十二次

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

【聖マルダライの祝文】

誦經 主宰神父全能者、主獨生の子イイススハリストス、及び聖神、惟一の神性、惟一の能力

よ、我罪人を憐み、爾が知る所の法を以て我不當の僕を救ひ給へ、蓋爾は世世に崇

め讃めらる、「アミン」。

## 第六時課

來れ、我等の王・神に叩拜せん。  
來れ、我等の王・神に叩拜伏せん。  
來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜伏せん。  
來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜伏せん。

### 第五十三聖詠

神よ、爾の名を以て我を救ひ、爾の力を以て我を判き給へ。神よ、我が禱を聽き、我が口  
の言を聆き納れ給へ、蓋外人は起ちて我を攻め、強き者は我が靈を覓む、彼等は神を  
己の前に置かず。視よ、神は私の援助なり、主は我が靈を固め給ふ。彼は我が敵に其悪  
を報いん、爾の眞實を以て彼等を滅し給へ。主よ、我心を盡して爾に祭を獻げ、爾  
の名を讚め揚げん、其善なるを以てなり、蓋爾は我を諸の艱難より救ひ給へり、我が目  
は私の敵を見たり。

### 第五十四聖詠

神よ、我が禱を聆き我が願より匿るる母れ。我に耳を傾けて我に聽き給へ、我は悲  
の中に呻ひ、敵の聲、不虔者の責に由りて擾ふ、蓋彼等は不法を以て我を誣ひ、怒を以  
て我に仇す。我が心は私の衷に慄き、死の恐惶は我に及べり、驚懼と戰栗とは我に臨み、

恐惶は我を圍めり。我言えり、孰か我に鴿の翼を予ふるあらん、我飛び去りて安を獲ん、  
遠く離れて野に居らん、急ぎて旋風と暴風とを避けん。主よ、彼等を亂し、其の舌を分  
けよ、蓋我は暴虐と争競とを城邑の中に見る、彼等は晝夜其の城垣の上を繞る。其中に  
毒悪と患難あり、殘害は其中にあり、詭詐と誑騙とは其衢を離れず。我を謗る者は敵に非  
ず、敵ならば我之を忍ばん、我に高ぶる者は我が仇に非ず、仇ならば我之を避けん、乃  
爾嘗て我と儔しき者、我の友、我の近き者たり、我と親しき談を爲しし者、偕に神の宮  
に行きし者たり。願はくは死は彼等に至らん、願はくは彼等は生きながら地獄に降らん、  
悪事は其住所に、其間に在ればなり。惟我神に籲ばん、主乃我を救はん。晩と朝と午  
に我祈りて籲ばん、彼乃我の聲を聞かん、我が靈を我を攻むる者より平安に脱れしめ  
ん、彼等夥しければなり。神は聽かん、世の前より在す者は彼等を卑くせん、蓋彼等  
に改新なし、彼等は神を畏れず、己の手を彼等と和睦する者に伸べ、己の約に背けり、  
其口は膏より滑らかにして、其心に仇を懷き、其言は油より柔らかにして、是れ白刃  
なり。爾の重任を主に負わしめよ、彼は爾を扶けん。彼は何時も義人に撼くを容さざら  
ん。神よ、爾は彼等を滅の阱に陥れん、血を流し、貳を行ふ者は生きて其日の半  
にも至るを得ず。主よ、惟我爾を頼む。

至上者の覆いの下に居る者は、全能者の蔭の下に安んず、主に謂う、爾は私の避所、私の防禦、我が頼む所の私の神なりと。彼は爾を獵者の網より、滅亡の疫より脱れしめん、彼は其の羽にて爾を覆わん、其の翼の下にて爾危からざるを得ん、彼の眞實は楯なり、鎧なり。爾は夜の震驚と晝の流矢、闇冥に行く行疫と正午に暴す瘴疫を懼れざらん。千人爾の側に、萬人爾の右に仆るとも、爾に近づかざらん、爾只目を注ぎて不虔の者の報を見ん、蓋爾謂へり、主は私の恃なりと、爾至上者を選びて、爾の避所と爲せり。悪は爾に臨まず、疫癘は爾の住所に近づかざらん、蓋爾の爲に其の天使に命じて、爾の凡の路に爾を護らしめん。彼等其手にて爾を抱へて、爾の足を石に蹴かざらしめん。爾蝮と毒蛇とを踐み、獅と大蛇とを踏まん。彼我を愛するに因りて、我之を援けん、彼我の名を識るに因りて、我之を衛らん。我を呼ばば、我彼に聽かん、憂の時我彼と偕にし、彼を援け、彼を榮せん、壽考を以て彼に飽かしめ、私の救を彼に顯さん。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

「ア丽丽ヤ」「ア丽丽ヤ」「ア丽丽ヤ」、神よ、光榮は爾に歸す。三次

主憐めよ。三次

【本日讃詞】第二調

アダムが地堂にて犯しし罪を第六日の第六時に十字架に釘つけしハリストス神や、我が罪の書附をも破りて我等を救ひ給へ。

第一句 神や我が祈を聆き我が願より匿るる母れ。

第二句 我神に籲ばん。主は則我を救はんとす。

光榮は父と子と聖神に歸す。

誦經 今も何時も世世に、「アミン」

【生神女讃詞】

生神・童貞女よ、我等夥しき罪ありて、己に勇なきに因りて、爾より生れし者に祈り給へ、蓋母の侍は多く主宰の慈憐を得べし、至浄の者よ、罪人の祈を棄つる勿れ、我等の爲に甘んじて苦を受け給ひし者は仁慈にして人を救ふことを能すればなり。

日替わり 別冊

【預言のトロパリ】（二歌斎経）

【ポロキメン】（二歌斎経）

【イサイヤの預言書の読み】（受難週はイエゼキイリ）

主よ、願はくは爾の慈憐は速に我等を迎へん、我等甚衰へたればなり、神我等の救世主よ、爾の名の光榮に因りて我等を助け給へ、爾の名に因りて我等を救ひ、我等の罪を浄め給へ。

【聖三祝文、至聖三者、天主経】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。 三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。 三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

【小讀詞】

ハリストス神よ、爾は地の中に救を施し、爾が至淨の手を十字架に伸べて、主よ、光榮は爾に歸すと呼ぶ萬民を集め給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、

仁慈なるハリストス神よ、我等爾の至淨なる聖像に伏拜して、我が諸罪の赦を求む、蓋爾は其造りし者を敵の奴隸より救はん爲に、甘じて身にて十字架に升り給へり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、世界を救はん爲に來りし我が救世主よ、爾は衆人を欣喜に満て給へり。

今も何時も世世に、「アミン」。

月、火、木には 慈憐の泉なる生神女よ、我等に 憐を 垂れ、罪なる人人を顧みて、恒の如く爾の力を顯し給へ。蓋我等は爾を待み、天軍首ガウリイルに倣ひて爾に呼ぶ、慶べよ。

水、金には 讚榮せらるる生神・童貞女よ、我等爾を歌ふ、蓋爾の子の十字架にて地獄は破られ、死は亡され、殺されし者は興きて生命を得、古に復りて地堂の福樂を受けたり。故に我等ハリストス吾が神に感謝して、其權能ありて獨仁慈なるを讚榮す。

主憐めよ。四十次

何の日何の時にも、天にも地にも叩拜讚榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誠に向はしめ給へ、我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、「アミン」。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフイムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讚む。

神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 主イイススハリストス我等の神よ、吾が諸聖神父の祈祷に依りて我等を憐めよ。

誦經 「アミン」。

司祭 聖エフレムの祝文、

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次

貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、

「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。( 躬拜すること十二次 )

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、

「アミン」。叩拜一次

神、天軍の主、萬物の造成者、爾が量り難き仁愛、慈憐を以て我が族を救はん爲に、爾  
 の獨生子吾が主イイススハリストスを遣し、其貴き十字架にて我等の罪の書券を破り、  
 又是を以て闇冥の首領と權柄とに勝ちし至仁なる主宰よ、我等罪なる者の此の感謝と祈願  
 との禱を納れて、諸害を爲す暗き罪、及び凡そ我等を殘はんと欲する見ゆる又見えざ  
 る諸敵より我等を救ひ給へ。我が體を爾を畏るる畏に釘うち給へ、我が心を邪なる  
 言或は思に傾かしむる勿れ、乃爾を愛する愛を以て我等の靈を刺して、我等に常  
 に爾を仰ぎ、爾よりする光に導かれて、爾近づき難き永存の光を望み、爾無原の父、  
 爾の獨生子、及び至聖至仁生を施す神に斷えず讚詠と感謝とを奉らしめ給へ、今  
 も何時も世世に、「アミン」。

第九時課

來れ、我等の王・神に叩拜せん。  
來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。  
來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

第八十三聖詠

萬軍の主よ、爾の住所は何ぞ愛すべき。我が靈は厚く慕ひて主の庭を望み、我が心  
我が身は生活の神に馳す。萬軍の主、我が王、我が神よ、雀も己の宿を獲、燕も己  
の巢を獲て、雛を爾が祭壇の傍に置く。爾の家に住む者は福なり、彼等は常に爾  
を讚め揚げん。力を爾に恃み、心の路を爾に向くる人は福なり。彼等は涙の谷を過  
りて、其中に泉を得、雨は降福にて之を覆う、彼等は力より力に進み、シオンに於て神  
の前に顯る。主萬軍の神よ、我が禱を聴け、イアコフの神よ、聴き納れ給え。神、我等  
を衛る主よ、俯して爾が膏つけられし者の面を視よ。蓋一日爾の庭に在るは千日に  
勝る、我悪者の幕に住まんよりは、寧神の家の閼の側に居らん。蓋主神は日なり、盾  
なり、主は恩寵と光榮とを賜ふ、行の玷なき者より幸福を奪はず。萬軍の主よ、爾を恃  
む人は福なり。

第八十四聖詠

主よ、爾は已に憐を爾の地に施し、イアコフの俘を歸せり、爾の民の不法を赦し、其凡ての罪を掩い、爾が悉くの忿を罷め、爾が怒の烈しきを除き給へり。我が救の神よ、我等を起し、爾が我等に於ける憤を釋き給へ。豈永く我等を忿り、爾の怒を世世に伸べんとするか、豈新に我等を活かして、爾の民に爾の事を悦ばしめざらんとするか。主よ、爾の憐を我等に顯し、爾の救を我等に施し給へ。我は主神の言はんとする所を聽かん、彼は平安を其民と其選びし者に謂はん、唯願はくは彼等は再無智に陥らざらん。此くの如く彼の救は彼を畏るる者に邇し、光榮の我が地に居らん爲なり。慈憐と眞實と相交り、義と和平と相接吻せん、眞實は地より出で、義は天より臨まん、主は、幸福を與へ、我が地は其果を與へん、義は彼の前に行き、其足を路に立てん。

第八十五聖詠

主よ、爾の耳を傾けて我に聽き給へ、我乏しくして貧しければなり。我が靈を護れ、我爾の前に慎しめばなり、我が神よ、爾を恃める爾の僕を救ひ給へ。主よ、我を憐め、我日に爾に呼べばなり。爾の僕の靈を樂しましめ給へ、主よ、我が靈を爾に擧ぐればなり、蓋主よ、爾は仁慈憐にして、凡そ爾を呼ぶ者に洪恩なり。主よ、我が禱を聽き、我が願の聲を聆き納れ給へ。我が憂の日に爾に呼ぶ、爾我に聽かん

とすればなり。主よ、諸神の中爾に如く者なく、爾の作爲に如くはなし。主よ、爾に造られし萬民は來りて爾の前に伏拜し、爾の名を讚榮せん、蓋爾は大にして、奇蹟を行ふ、爾神よ、獨爾なり。主よ、我を爾の路に導き給へ、然せば我爾の眞理に行かん、我が心を爾の名を畏るる畏に固め給へ。主我が神よ、我心を盡して爾を讚美し、永く爾の名を讚榮せん、蓋我に於ける爾の憐は大なり、爾は我が靈を甚と深き地獄より援け給へり。神よ、驕る者は起ちて我を攻め、暴虐者の黨は我が靈を尋ぬ、彼等は爾を己の前に置かず。然れども爾主、宏慈にして矜恤、寛忍にして洪恩、眞實なる神よ、我を顧み、我を憐み、爾の力を爾の僕に賜ひ、爾の婢の子を救ひ給へ。恩の徴を我に顯し給へ、我を疾む者は之を見て爲に愧を得ん、爾主よ、我を助け、我を慰め給ひしに因る。

恩の徴を我に顯し給へ、我を疾む者は、之を見て爲に愧を得ん、爾主よ、我を助け、我を慰め給ひしに因る。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」「ア ril イヤ」、神よ、光榮は爾に歸す。三次

主憐めよ。三次

【本日讃詞】第八調

第九時に我等の爲に身にて死を嘗めしハリストス神よ、我が肉體の念を殺して、我等を救ひ給へ。(詠)繰り返す

第一句、主よ、願はくは我が籲聲は爾が顔の前に遡づかん、爾の言に循ひて我を悟せら給へ。(詠)繰り返す

第二句、願はくは我が祷は爾が顔の前に至らん、爾の言に循ひて我を救ひ給へ。

(詠)繰り返す

光榮は父と子と聖神に歸す、

誦経 今も何時も世々に、「アミン」。

【生神女讃詞】

我等の爲に童貞女より生れ、十字架に釘うたるを忍び、神なるに依りて死にて死を滅し、復活を顯しし仁慈なる主よ、爾の手にて造りし者を棄つる勿れ、慈憐の主よ、爾が人を愛する愛を顯して、我等の爲に祈祷する所の爾を生みし生神女を受け給へ、我が救主よ、望を失へる人人を救ひ給へ。

爾の名に因りて我等を終まで棄つる勿れ、爾の盟約を破る勿れ、爾の憐を我等より

除く勿れ、爾が愛する所のアウラムと、爾の僕イサクと、爾の聖なるイスライリ  
とに因りてなり。

【聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

盜賊は生命の首が十字架に懸れるを見て曰へり、我等と共に釘うたれし者は、若し身を取りし神に非ずば、日は其光線を隠さず、地も戦ひ慄かざらん、萬の事を忍ぶ主よ、爾の國に於て我を憶ひ給へ。

光榮は父と子と聖神に歸す、

爾の十字架は一人の盜賊の間に在りて義の權衡と爲れり、一人は謗の重きを以て地獄に降され、一人は罪を釋かれ軽くせられて、神學の智識に昇せられて、ハリストス神よ、光榮は爾に歸すと讚揚するを悟れり。

今も何時も世世に、「アミン」。

爾を生みし者は爾 羔にして牧者たる世界の救主が十字架に在るを見て、泣きて曰へり、吾が子吾が神よ、世界は救を獲て喜び、我は爾が衆人の爲に忍びて釘うたるるを見て心を灼けり。

主憐めよ。(40次/12次)

何の日何の時に、天にも地にも叩拜讚榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の袴をも受け、我等の生命を爾の誠に向はしめ給へ、我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾よ

り救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフィムに並なく榮え、貞操を壊らずして神言を生みし實の

生神女たる爾を崇め讃む。

神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 神よ、我等に恩を被らせ、我等に福を降し、爾の顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給へ。

誦經 「アミン」。

### 司祭 聖エフレムの祝文

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次

貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。(躬拜すること十二次)

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

### 聖大ワシリイの祝文

誦經 主宰イイススハリストス吾が神よ、我等の罪を寛忍して、我等を今の時に至らしめ給

ひし主よ、昔此の時に生命を施す木に懸りて、善智なる盜賊の爲に天堂の道を啓き、死

を以て死を滅し給ひし主よ、我等罪なる爾の當らざる僕を浄め給へ、我等罪を犯し、不法

を行ひ、目を擧げて天の高きを見るに堪へざればなり、蓋爾の義の道を離れ、私慾を

恣にして日を送れり。主よ、爾の量り難き仁慈に祈る、爾が多くの憐に因りて我等

を宥め、爾の聖なる名に因りて我等を救ひ給へ、我が日空しく消ゆればなり。我等を敵

の手より援け給へ、我等が諸の罪を赦し給へ、我等が肉體の念を殺し給へ、我等舊き人

を脱ぎ、新しき人を衣、爾我等の主宰及び恩者の爲に生き、此くの如く爾の誠に遵

ひて、悉くの樂しむ者の住所なる永遠の安息に至らん爲なり。蓋ハリストス吾が神よ、

爾は實に爾を愛する者の眞の樂と喜なり、我等爾と、爾の無原の父と、至聖

至<sup>し</sup>仁<sup>じん</sup>生<sup>い</sup>命<sup>のち</sup>を施<sup>ほ</sup>す<sup>どこ</sup>爾<sup>なん</sup>の<sup>じ</sup>神<sup>しん</sup>とに光<sup>こう</sup>榮<sup>えい</sup>を歸<sup>き</sup>す、  
今<sup>いま</sup>も何<sup>い</sup>時<sup>いつ</sup>も世<sup>よ</sup>世<sup>よ</sup>に、「アミン」。

聖體禮儀代式（ティピカ）

【歌】（眞福詞） 第八調。

主よ、爾の國に於て我等を憶ひ給へ。

神の貧しき者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

（附唱）主よ、爾の國に來らん時我等を憶ひ給へ。（各句ごと繰り返す）

泣く者は福なり、彼等慰を得んとすればなり。

溫柔なる者は福なり、彼等地を嗣がんとすればなり。

義に飢え渴く者は福なり、彼等飽くを得んとすればなり。

矜恤ある者は福なり、彼等矜恤を得んとすればなり。

心の清き者は福なり、彼等神を見んとすればなり。

和平を行ふ者は福なり、彼等神の子と名づられんとすればなり。

義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。

人我の爲に爾等を詬り、窘逐し、爾等の事を譎りて諸の悪しき言を言はん時は、

爾等福なり。

喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

大齋のときには、左右の詠隊声を合わせて「主や爾の国に」「主宰や」「聖なる者や」の三句をゆったり歌い、一句ごとに叩拝する。

光榮は父と子と聖神に歸す。今も何時も世世に、「アミン」。

主よ、爾の國に於て我等を憶ひ給へ。叩拜一次

主宰よ、爾の國に來らん時我等を憶ひ給へ。叩拜一次

聖なる者よ、爾の國に來らん時我等を憶ひ給へ。

天軍爾を歌ひて曰ふ、聖、聖、聖なる哉主サワオフ、爾の光榮は天地に徧し。

（句）目を擧げて彼を仰ぐ者は照されたり、彼等の面は愧を受けざらん。

天軍爾を歌ひて曰ふ、聖、聖、聖なる哉主サワオフ、爾の光榮は天地に徧し。

光榮は父と子と聖神に歸す。

聖天使及び天使首の群は衆天軍と共に爾を歌ひて曰ふ、聖、聖、聖なる哉主サワオフ、爾

の光榮は天地に徧し。

今も何時も世世に、「アミン」。

### 信經

我信ず、一の神、父、全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物を造りし主を。又信ず一の主

イイスス・ハリストス、神の獨生の子、萬世の前に父より生れ、光よりの光、眞の神よ

りの眞まことの神かみ、生うまれし者ものにて、造つくられしに非あらず、父ちちと一體いつたいにして、萬物ばんぶつ彼かれに造つくられ、我等われら人ひとの爲ため、又また我等われらの救すくいの爲ために天てんより降くだり、聖神せいしん及び童貞女どうていじよマリヤより身みを取り、人ひととなり、我等われらの爲ためにポンテイイ・ピラトの時とき十字架じゅうじかに釘くぎうたれ、苦くるしみを受け、葬ほうむられ、第三日だいさんじつに聖書せいしよに應かなひて復活ふっかつし、天てんに升のぼり、父ちちの右みぎに座ざし、光榮こうえいを顯あらわして生いける者と死しせし者とを審判しんぱんする爲ために還來またきたり、其國そのくに終おわりなからんを。又また信しんず、聖神せいしん、主しゆ、生いのちを施ほどこす者もの、父ちちより出いで、父ちち及び子こと共に拜おがまれ、讚ほめられ、預言者よげんしやを以もつて嘗かつて言いひしを。又また信しんず一ひとつの聖せいなる公おおやけなる使徒しとの教會きやうかいを。我認われみとむ一ひとつの洗禮せんれい、以もつて罪つみの赦ゆるしを得うるを。我望われのぞむ死者ししやの復活ふっかつ、並ならびに來世らいせいの生命いのちを、「アミン」。

神かみよ、我わが自由じゆうと自由じゆうならざると、言ことばと行おこない、知しると知しらざると、晝ひるに夜よるに、思おもい、心こころにて犯おかしし諸もろもろの罪つみを宥なだめ、之これを釋とき、之これを赦ゆるせ、仁慈じんじにして人ひとを愛あいする主しゆよ、皆みな我等われらに赦ゆるし給たまへ。

### 天主經

天てんに在います我等われらの父ちちよ、願ねがはくは爾なんじの名なは聖せいとせられ、爾なんじの國くには來きたり、爾なんじの旨むねは天てんに行おこなはるるが如ごとく地ちにも行おこなはれん、我わが日用にちようの糧かてを今日こんにち我等われらに與あたへ給たまへ、我等われらに債おいめある者ものを我等われら免ゆるすが如ごとく、我等われらの債おいめを免ゆるし給たまへ、我等われらを誘いざないに導みちびかず、猶なお我等われらを凶惡きようあくより救すくひ給たまへ。

司祭 蓋國けだしくにと權能けんのうと光榮こうえいは爾父なんじちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに。

【小讚詞】(天齋第一週奉事式略では省略)

月曜日には天使の小讚詞。第二調

聖せいなる天軍首てんぐんしゅ、神かみの光榮こうえいの役者えきしや、諸神使しよしんしの宰つかさ、及び人々ひとびとの教導者きようどうしやや、我等われらの為ために益えきあることと大なる憐あわれみを求め給へ、爾等なんじらは無形むけいの軍ぐんの首長しゅちようなればなり。

火曜日には前驅の小讚詞

神かみの預言者よげんしや恩寵おんちようの前驅ぜんくや、我等われら爾なんじの首こうべを聖せいせられし花はなの如ごとく、地ちより獲えて恒つねに愈いゆるを得う、蓋けだしなんじ爾いまは今いにしえも古ごとの如ごとく世よに悔改くいあらためを傳つたふればなり。

水、金曜日には十字架の小讚詞 第四の調

甘んじて十字架じゆうじかに擧あげられしハリストス神かみよ、爾なんじが同名どうめいの新あらたなる住所すまいに爾なんじの慈憐じれんを賜たまへ。爾なんじの力ちからを以もつて、我わが国くにを司つかさする者ものを樂たのしましめて、彼かれに諸敵しよてきに勝かたしめ給へ。彼かれは爾なんじの援助たすけとして平安へいあんの武器ぶき、勝かたれぬ旗はたを有たもてばなり。

木曜日には聖使徒の小讚詞 第二の調

主よ、爾は堅固にして神妙なる傳道師、爾が門徒の首たる者を爾の福の樂みと安息とに納れ給へり。獨心中をる者や、爾彼等の勞と死を凡の果実の獻物より勝りて受けたればなり。

同日には聖ニコライの小讃詞 第三の調

聖なる者や、爾はミル城に顯れて聖なる務を行へり。克肖者よ、爾はハリストスの福音に遵ひて爾の生命を爾の人々の爲に捐て、罪なき者を死より救ひ給へり。故に聖せられて神の恩寵の大なる秘密者となれり。

光榮は父と子と聖神に歸す。

ハリストスよ、爾が僕婢の靈を諸聖人と偕に疾も悲も歎もなく、惟終なき生命のある處に安んぜしめ給へ。または生神女に獻ぜられた聖堂の場合は聖堂の小讃詞を誦する。

今も何時も世世に、「アミン」。

「ハリステイアニン」等の辱を得ざる轉達、造物主の前に變らざる中保よ、罪なる者の禱の聲を斥くる勿れ、仁慈なるに依りて速に我等を助け給へ、蓋我等切に爾

に呼ぶ、生神女よ、爾を尊む者に常に代りて、急ぎて禱り、切に求め給へ。

大四旬齋(先備のない時は)には以下の通り。

主憐めよ。四十次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、「アミン」。

ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく榮え、貞操を壊らずして神言を生みし實の

生神女たる爾を崇讃む。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、「アミン」。主憐めよ。三次 福を降せ。

司祭 神や、我等に恩を被らし云々。

司祭 【聖エフレムの祝文】、

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次

貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。( 躬拜すること十二次 )

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

「晩課に続く」

ただし先備聖体礼儀のある時は以下の通り

至聖なる三者、一性の権柄、分れざる國、萬善の源よ、我罪人の爲にも慮り給へ。我が心を固め、之を悟らせ、我が諸の汚を除き給へ。我が智識を照し、我に常に讚榮讚頌叩拜して唱へさせ給へ、聖なるは一、主なるは一、神父父の光榮を顯すイイスス・ハリストスなり、「アミン」

司祭 睿智

常に福にして全くきざなき生神女、我が神の母なる爾を讚美するは真に当たれり。

司祭 至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ、

ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく榮え、貞操を壊らずして神言を生みし實生神女たる爾を崇讚む。

司祭 ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、「アミン」。主憐れめよ。三次 福を降せ

司祭「解放詞」

ハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母の祈祷と、生命を施す尊き十字架の力と、光榮にして讚美たる聖使徒、聖（ ）、聖にして義なる神の祖父母イオアキムとアンナ、及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

「アミン」 主憐れめよ、主憐れめよ、主憐れめよ。

晩課

司祭、我等の神は崇讃らる、今も何時も世々に  
誦經、「アミン」

來れ、我等の王・神に叩拜せん。

來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。

來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

第三百三聖詠

我が靈よ、主を讃め揚げよ、主我が神よ、爾は至りて大なり、爾は光榮と威嚴とを被り。爾は光を袍の如くに衣、天を幔の如くに張る、水の上に爾の宮を建て、雲を爾の車と爲し、風の翼にて行く。爾は風を以て爾の使者と爲し、焰を以て爾の役者と爲す。爾は地を固き基に建てたり、此れ世世に動かざらん。爾は淵を以て衣服の如くに之を覆へり、山の巔に水立つ。爾の恐嚇に依りて此れは奔り、爾の雷の聲に由りて速に去る。山に升起り、澗に降り、爾の此れが爲に定めし處に至る。爾界を立てて之を躐えざらしむ、反りて地を覆わざらん。爾は泉を澗に遣せり、山の間に水は流れ、野の諸の獸に飲ましむ、野の驢は其渴を止む。空の鳥は其の傍に棲み、枝の間よ

り聲を出す。爾は上なる宮より山を潤し、地は爾の造工の果にて饜き足れり。爾は草を獸の爲に生ぜしめ、野菜を人の需の爲に生ぜしめて、地より食物を出さしむ。酒は人の心を樂しませ、膏は其の面を澤し、餅は人の心を養ふ。主の樹、其植えたるリワンの柏香木は饜き足れり、鳥は其上に巢を造る、松は鶴の棲處たり、高き山は鹿の爲、磐石は兎の爲に避所たり。主は月を造りて時を定め、日は其入る處を知る。爾暗を布けば、則夜あり、其時林の獸皆出で廻る、獅は獲物の爲に吼えて、其食を神に乞ふ。日出づれば、彼等集りて己の穴に伏す。人は其工作の爲に出で、勞きて暮に至る。主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり、地は爾の造物にて滿ちたり。夫の大にして廣き海、彼處には無數の動物、大小の生物あり、彼處には舟通ひ、彼處には彼の大魚あり、爾造りて其中に遊ばしむ。彼等は皆爾が時に随ひて食を予ふるを待つ。之に予ふれば受け、爾の手を開けば、賜に饜かせらる、爾の顔を隱せば惶れ惑ひ、其の氣を取り上ぐれば死して塵に歸る。爾の氣を施せば造られ、爾は又地の面を新にす。願はくは光榮は世世に主に在らん、願はくは主は己の造工の爲に樂まん。彼地を觀れば、地震い、山に觸るれば、煙起つ。我生ける中主にひ、世を終ふるまで我が神に歌わん。願はくは我が歌は彼に悦ばれん、我主の爲に樂まん。願はくは罪人等は地より消え、不法の者は存するなけん。我が靈よ、主を讚め揚げよ。

日は其入る處を知る、爾暗を布けば、則夜あり。

主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

「ア ril l i y a」「ア ril l i y a」「ア ril l i y a」、神よ、光榮は爾に歸す。三次

### 【天聯禱】

【聖詠經】カフィズマ 第十八カフィズマ（『大斎第一週奉事式略』では聖詠は一部のみ記載。先備の準備に時間がかかるため、カフィズマ全文を読んでもよい）

先備聖体礼儀のない日は段ごとに、「光榮」「今も」「ア ril l i y a（三次）」、「主憐れめよ（三次）」、「光榮」「今も」

先備聖体礼儀のある日は「光榮」「今も」「ア ril l i y a」に続いて【小連禱】

示聯禱】

主や爾に呼ぶ指定された調でを歌う聖詠の最後からステイヒラの数に応じてを挿入する。

第四百十聖詠

(詠) 主よ、爾に籲ぶ、速に我に格り給へ。主よ、我に聴き給へ。主よ、爾に籲ぶ、速に我に格り給へ。爾に籲ぶ時我が禱の聲を納れ給へ。主よ、我に聴き給へ。願はくは我が禱は香爐の香の如く爾が顔の前に登り、我が手を擧ぐるは暮の祭の如く納れられん。主よ、我に聴き給へ。

嗣ぎて以下の句を誦す、

主よ、我が口に衛を置き、我が唇の門を扞ぎ給へ、我が心に邪なる言に傾きて、不法を行ふ人と共に罪の推諉せしむる母れ、願は我は彼らの甘を嘗めざらん。義人は我を罰すべし、是れ矜恤なり、我を謹むべし、是れ極と美き膏我が首を悩ます能はざる者なり、唯我が禱は彼等の悪事に敵す。彼等の首長は巖石の間に散じ、我が言の柔和なるを聴く。我等を土の如く斫り碎き、我が骨は地獄の口に散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は爾を仰ぎ、我爾を恃む、我が靈を退くる勿れ。我が爲に設けし隙、不法者の羅より我を護り給へ。不虔者は己の網に羅り、唯我は過ぐるを得ん。

第四百十一聖詠

我が聲を以て主に籲び、我が聲を以て主に禱り、我が禱を其前に注ぎ、我が憂を其前に顯はせり。我が靈、我の衷に弱りし時、爾は我の途を知れり、我が行く路に於て彼らは竊に我が爲に網を設けたり。我右に目を注ぐに、一人も我を認むる者なし、我に遁るる所なく、人の我が靈を顧る者なし。主よ、我爾に呼びて去へり、爾は我の避所なり、生ける者の地に於て我の分なり。我が籲を聞き給へ。我甚だ弱りたればなり、我を迫害する者より救ひ給へ、彼等は我より強ければなり。

我が靈を獄より曳出して、我に爾の名を讃揚せしめ給へ、ステイヒラ⑩  
爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。⑨

第百二十九聖詠

主や、我深き處より爾に籲ぶ。主や、我が聲を聞き給へ。⑧  
願は爾の耳は我が禱の聲を聴納れん。⑦

日替わり ↓ 別冊

主や爾若し不法を糾さば、主よ孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人に爾の前に敬まん為なり。

我主を望み、我が靈は主を望み、我彼の言を恃む。

我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。④  
願はイスライリは主を待まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼は  
イスライリを其悉の不法より贖はん。

第一百十六聖詠

萬民や、主を讚揚げよ、萬族や、彼を崇讚めよ。  
蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

光榮は、今も

【生神女讚詞】（三歌齋經に指定がない場合は、「八調經」からその週の調その曜日の生神女讚詞を歌う）

【聖にして福たる】イエルサリムの總主教聖ソフロイの祝文。先備聖体禮儀がないときは誦誦。あるときは歌う。

聖にして福たる常生なる、天の父の聖なる光榮の穩かなる光イイスス・ハリストスや、  
我等日の入に至り、晩の光を見て、神父と子と聖神を歌ふ。生命を賜ふ神の子や、爾は  
何時も敬虔の聲にて歌はるべし、故に世界は爾を崇め讚む。

日替わり↓別冊

【ポロキメン】三歌齋經参照

【創世記の読み】

【ポロキメン】

先備聖体禮儀があるときは司祭は口ウソクを持ってアンボンに出てきて「ハリストスの光は衆人を照らす」。衆人伏拝。

【箴言の読み】

先備聖体礼儀があるときは「願わくは我が祈りは」へ

先備聖体礼儀がない場合は以下の通り

主よ、我等を守り、罪なくして此の晩を渡らせ給へ。主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、爾の名は世世に尊み歌はる、「アミン」

主よ、爾を待むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給へ。主よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓へ給へ。主宰よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に悟らせ給へ。聖なる者よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠にて我を照し給へ。

主よ、爾の隣は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ。讃は爾に歸し、歌は爾に歸し、光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

【増連禱】我等の晩の禱を増して主に献らん云々

日替わり↓別冊

【挿句讃頌】

ステイヒラ

第一句、天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。

ステイヒラ

第二句、主よ、我等を憐み、我等を憐み給へ、蓋我等は侮に贖き足れり、我等の靈は驕

る者の辱と誇る者の侮とに壓き足れり。

「光榮は」 「今も」 聖神女讃詞」

聖抱神者シメオンの祝文】

主宰よ、今爾の言に循ひて、爾の僕を釋し、安然として逝かしむ。蓋我が目は爾の救  
を見たり、爾が萬民の前に備へし者なり、是れ異邦人を照す、光及び爾の民イズライ  
リの榮なり。

聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖

なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行  
はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を

我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

「アミン」。

大齋は以下の讃詞を歌う。第四調。

(詠) 生神童貞女や、慶べよ、恩寵に満たさるるマリヤや、主は爾と偕にす、爾は女の中に讃美たり、爾の胎の果も讃美たり、爾は我等の靈を救ふの主を生めばなり。

叩拜一次

光榮は父と子と聖神に歸す。

ハリストスの授洗者や、我等衆人を記憶して、我が不法より救はるるを得せしめ給へ、我等の爲に祈祷するの恩寵は爾に賜はりたればなり。叩拜一次

今も何時も世世に「アミン」。

聖使徒と諸聖人や、我等の爲に祈りて、我等に禍と憂より救はるるを得せしめ給へ、爾等は救世主の前に吾が熱心の中保者なればなり。叩拜一次  
生神女や、我等爾が慈憐の下に趨附く、危き時に於て我等の祈祷を輕ずる勿れ、獨淨

く、ひとりあがめほ 獨崇讚めらるる者や、我等を諸の禍より救ひ給へ。

誦經 主憐めよ。(四十次ノ三次)

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

ヘルワイムより尊く、セラフイムに並びなく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の

生神女たる爾を崇讚む。

神父や主の名を以て福を降せ。

司祭、永在の主ハリストス我等の神は常に崇讚めらる、今も何時も世世に、

誦經、「アミン」

天の王や、我等の皇帝を佑け、正教を固め、異教を循はせ、世界を穩にし、克く此の聖堂を護り、已に過ぎ去りし我等の諸父兄弟を義人の住居に置き、並に我等の痛悔と承認を納れ給へ、爾は仁慈にして人を愛するの主なればなり。

司祭 聖エフレムの祝文】

主吾が生命の主幸よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次

貞操と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、

「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。 躬拜すること十二次

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

誦經 主憐れめよ(三次)

祝文

至聖なる三者、一性の權柄、分れざる國、萬善の源よ、我罪人の爲にも慮り給へ。

我が心を固め、之を悟らせ、我が諸の汚を除き給へ。我が智識を照し、我に常に

讚榮讚頌叩拜して誦へさせ給へ。聖なるは一、主なるは一、神父の光榮を顕すイイス

スハリストスなり、「アミン」。

願くは主の名は崇讚められ今より世世に至らん。三次、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

第三十三聖詠

我何の時にも主を讃め揚げん、彼を讃むるは恒に我が口に在り、我が靈は主を以て誇らん、溫柔なる者は聞きて樂まん。我と偕に主を尊め、偕に彼の名を崇め讃めん。我嘗て主を尋ねしに、彼は我に聆き納れて、我が都ての危きより我を免れしめ給へり。目を舉げて彼を仰ぐ者は照されたり、彼等の面は愧を受けざらん。此の貧しき者籲びしに、主は聆き納れて、之を其の悉くの艱難より救へり。主の使は主を畏るる者を環り衛りて、彼等を援く。味へよ、主の如何に仁慈なるを見ん、彼を恃む人は福なり。凡そ主の聖人よ、主を畏れよ、蓋彼を畏るる者は乏しきことなし。少き獅は乏しくして餓え、唯主を尋ぬる者は何の幸福にも缺くるなし。小子よ、來りて我に聽け、主を畏るるの畏を爾等に訓へん。人生くるを望み、又壽へて幸福を見んことを欲するか、爾の舌を惡より、爾の口を譌の言より止めよ。惡を避けて善を行ひ、和平を尋ねて之に従へよ。主の目は義人を顧み、其耳は彼等の呼ぶを聆く。唯主の面は惡を爲す者に對ふ、其名を地より滅さん爲なり。義人は籲ぶに、主は之を聽き、彼等を悉の憂より免かれしむ。主は心の傷める者に近し、靈の謙だる者を救はんとす。義人には憂多し、然れども主は之を悉く免しめん。主は彼が悉の骨を護り、其一も折れざらん。惡は罪人を殺し、義人を憎む者は亡びん。主は其の僕の靈を救ひ、彼を頼む者は一人も亡びざ

らん。

司祭 睿智

(詠) 常に福にして全く玷なき生神女吾が神の母なる爾を福なりと稱ふるは眞に當れり、

司祭 至聖なる生神女よ、我等を救い給え

ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく榮え、貞操を壊らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇讃む。

司祭 ハリストス我等の恃みや、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す

(詠) 光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、「アミン」。主憐めよ。三次  
福を降せ。

司祭發放詞 ハリストス我等の眞の神は…:

(詠) アミン、神や我が国の天皇、及び国を司る者、我等の府主教ダニイル、および正教のハリステイアニンを幾とせにも護り給え。

先備聖体礼儀があるときは75ページから

願ねがはくは我わが禱いのりは香こうろ爐かおりの香かおりの如ごとく爾なんじが顔かんばせのまえ前に登のぼり、我わが手てを舉あぐるは暮くれの祭まつり  
の如ごとく納いれられん。主しゅよ、我われに聴きき給たまへ。

(第一句)主しゅよ、爾なんじに籲よぶ、速すみやかに我われに格いたり給たまへ。主しゅよ、我われに聴きき給たまへ。

(第二句)主しゅよ、爾なんじに籲よぶ、速すみやかに我われに格いたり給たまへ。爾なんじに籲よぶ時とき我わが禱いのりの聲こえを納いれ給たまへ。主しゅ

よ、我われに聴きき給たまへ。

(第三句)主しゅよ、我わが口くちに衛まもりを置おき、我わが唇くちびるの門もんを扞ふぎ給たまへ、我わが心こころに邪よこしまなる言ことば  
に傾かたぶきて、不ふ法ほうを行おこなふ人ひとと共ともに罪つみの推い誘わけせしむる母なかれ、

「願ねがわくは」をソロで歌い、詠隊繰り返す。各句ごとに「願ねがわくは」を詠隊繰り返し、最後は「願ねがわくは」前半をソロが歌い、後半詠

隊。歌い方は適宜。

# 晩堂大課

司祭始めて誦す、

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

天の王、慰むる者よ、眞實の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者よ、萬善の寶藏

なる者、生命を賜ふ主よ、來りて我等の中に居り、我等を諸の穢れより潔くせよ、

至善者よ、我等の靈を救ひ給へ。

【聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖

なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行

はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

來れ、我等の王・神に叩拜せん。

來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。

來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

大齋第一(月曜から木曜)には第六十九聖詠をゆつくり読み、クリトの大主教聖アンドレイの大カノンを行う。第4週以外は第4聖詠へ。

#### 第六十九聖詠

神よ、速に我を救へ、主よ、速に我を助け給へ。我が靈を求むる者は、願はくは耻を得て辱を受けん、禍を我に望む者は、願はくは退けられて嘲けられん。我に向ひて嘻嘻と云ふ者は、其我を辱しむるに因りて、願はくは退けられん。凡そ爾

を求むる者は、願はくは爾の爲に喜び樂まん、爾の救を愛する者は、願はくは常に神は大なりと云はん。我は貧しくして乏し、神よ、速に我に格り給へ、爾は私の助なり、我を救ふ者なり、主よ、遅はる母れ。

【アンドレイの大カノン】(三歌齋経)を歌う。

大齋の第一週間以外には

#### 第四聖詠

吾が義の神よ、我が籲ぶ時、我に聴き給へ。我が狭に在る時、爾我に廣を與へたり。我を憐みて、我が禱を聴き給へ。人の子よ、我が榮の辱しめらるること何の時に至るや、爾等虚を好み詭を求むること何の時に至るや。爾等主が其聖人を析ちて己に屬せしめしを知れ、我籲べば、主は之を聴く。忿りて罪を犯す母れ、榻に在るとき爾等の心に謀りて、己を鎮めよ。義の祭を献げて、主を恃め。多くの者は言ふ、誰か我等に善を示さん。主よ、爾の顔の光を我等に顯し給へ。爾の我が心に樂を満つるは、彼等が餅と酒と油とに豊なる時より勝れり。我安然として偃し寝ぬ、蓋主よ、獨爾は我に無難にして世を渡らしめ給ふ。

#### 第六聖詠

主よ、爾の憤を以て我を責むる母れ、爾の怒を以て我を罰する勿れ。主や、我を憐

み給へ、我弱ければなり、主よ、我を醫し給へ、我が骸は慄き、我が靈も甚慄けばなり、爾主よ、何の時に至るか。主よ、面を轉へし、我が靈を免れしめ、爾の憐に由りて我を救ひ給へ。蓋死の中には爾を記憶するなし、墓の中には誰か爾を讚揚せん。我嘆にて憊れたり、毎夜我が榻を滌ひ、我が涙にて我の褥を濡す。我が眼は憂に因て枯れ、我が諸の敵に因りて衰へたり。凡そ不法を行ふ者は我を離れよ、蓋主は我が泣く聲を聞き、主は我が願を聽き給へり、主は我が禱を納れんとす。願はくは我が諸の敵は辱しめられて痛く撃たれん、願はくは退きて俄に愧を得ん。

## 第十二聖詠

主よ、我を全く忘るること何の時に至るか、爾の面を我に隠すこと何の時に至るか、我が己の靈の中に謀り、心の中に日夜憂を懐くこと何の時に至るか、我が敵の我に高ぶること何の時に至るか。主我が神よ、顧みて我に聽き給へ、我が目を明にして、我を死の寐に寐ねざらしめ給へ、我が敵に我は彼に勝てりと曰はざらん爲、我を攻むる者が我の撼く時に喜ばざらん爲なり。我爾の憐を待み、我が心爾の救を喜ばん、我恩を施すの主を讚め頌ひ、至上なる主の名を崇め歌はん。

主我が神よ、顧みて我に聽き給へ、我が目を明にして、我を死の寐に寐ねざらしめ給へ、我が敵が我は彼に勝てりと曰はざらん爲なり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ、光榮は爾に歸す。三次、躬拜三次

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

## 第二十四聖詠

主や爾に我が靈を擧ぐ。吾が神や、爾を恃む、我に世々愧なからしめよ。我が敵を我に勝ちて喜ばしむる母れ。凡そ爾を恃む者にも愧なからしめ給へ。妄に法を犯す者は願くは愧を得ん。主や我に爾の道を示し、我に爾の路を訓へよ。我を爾の眞理に導て、我を訓へ給へ。蓋爾は我が救の神なり、我日々に爾を恃めり。主や爾の鴻恩と爾の慈憐を記憶せよ、蓋是れ永遠よりあるなり。我が少き時の罪と過を記憶する母れ。主よ、爾の仁慈に依り爾の慈憐を以て我を記憶せよ。主は仁なり義なり。故に罪人に道を訓へ示す。謙遜の者を義に導き謙遜の者に己の道を訓ふ。凡そ主の道は其約と其啓示を守る者に在て慈憐なり、眞實なり。主や爾の名に因て我が罪を赦し給へ、其大なるを以てなり。誰か主を畏るる人たる。主は之に擇ぶべき道を示さん。彼の靈は福に居り、彼の裔は地を嗣がん。主の奥義は彼を畏るる者に屬し、彼は其約を以て彼等に顯はす。我が目常に主を仰ぐ、其我が足を網より出すに因る。我を顧み我を憐め、我獨にして苦めらるるに因る。我が心の憂

益多し、我が苦難より我を引き出せ、我が困苦、我が勞瘁を顧み、我が諸の罪を赦し給へ。我が敵を觀よ、何ぞ多き、彼等が我を怨むの恨は何ぞ甚き。我が靈を護りて我を救ひ、我が爾に於る時に愧なからしめ給へ。願は無玷と義とは我を護らん、蓋我爾を待めばなり。神よ、イズライリを其諸の憂より救ひ給へ。

### 第三十聖詠

主や爾を恃む、我に世々に愧なからしめよ。爾の義を以て我を免れしめ給へ。爾の耳を我に傾けて、速に我を免れしめよ、我が爲に磐石となり隱家となりて、我を救へ、蓋爾は我が石山、我が石垣なり、爾の名に依て、我を導き、我を治め給へ。竊に我が爲に設けたる網より我を引き出し給へ、蓋爾は我の固なり。我が神を爾の手に渡す、主眞理の神よ、爾曾て我を救へり。我虚しき偶像を尊む者を疾み、唯主を恃む。我爾の憐を歡び樂まん、蓋爾は我が禍を顧み、我が靈の憂を知り、我を敵の手に渡さず、我が足を廣き處に立てたり。主よ、我を憐れみ給へ、我狭きに居ればなり。我が目は憂に縁て枯れたり、我が靈も我が腹も亦然り。我が生命は悲の中に盡き、我が年は嘆の中に盡きたり、我が力は罪に依て弱り、我が骨は枯れたり。我は諸敵に因て、隣にも辱しめられ、知人には忌み憚られ、我を衢に見る者は我を避く。我は死者の如く人の心に忘れられたり。我は壞られたる器の如し、蓋我は多人の誹を聞く、彼等が相議して我を攻め我が靈を抜かん

ことを計るとき、四方に惶れあり。主よ、我爾を恃む。我謂ふ、爾は我の神なり。我が日は爾の手に在り、我を我が敵の手と我を攻る者より免れしめ給へ。爾の光る顔を爾の僕に顯し、爾の憐を以て我を救ひ給へ。主よ、我爾に呼ぶに由て、羞を得せしむる母れ。願くは無道の者は羞を蒙りて地獄に沈黙せん。願はくは傲と侮を以て、義人に向ふて、悪きを言ふ 謊の口は唾とならん。大なる哉、爾の恩、爾を畏るる者の爲に畜へ、爾を恃む者の爲に、人の子の前に備へたる者や。爾は彼等を人の亂より爾が面の蔭に庇ひ、彼等を舌の争より幕の中に隠す。主は崇め讃めらる。彼は己の妙なる 憐を我に堅固なる城邑の中に顯したればなり。我が惑へる時我爾の目より絶れたりと思へり。然れども、我爾に呼びし時、爾は我が祈の聲を聴き給へり。主の 悉の義人は主を愛せよ、主は 忠信の者を護り、傲慢の者には 嚴く報ゆ。凡そ主を頼む者は勇め、爾等の心は固くなるべし。

### 第九十聖詠

至上者の覆の下に居る者は、全能者の蔭の下に安んず、主に謂ふ、爾は我の避所、我の防禦、我が頼む所の 我の神なりと。彼は爾を獵者の網より、滅びの疫より脱れしめん、彼は其羽にて爾を覆はん、其翼の下にて爾 危からざるを得ん、彼の眞實は楯なり、鎧なり。爾は夜の震驚と晝の流矢、闇冥に行く 行疫と正午に暴す瘴疫を懼れざらん。千人爾の側に、萬人爾の右に仆るれども、爾に近づかざらん。爾只目を注ぎて不虔の者の報いを見

ん、蓋爾謂へり、主は我の恃なりと、爾至上者を擇びて、爾の避所とせり。惡は爾に臨まず、疫癘は爾の住所に近づくがざらん。蓋爾の為にその天使に命じて、爾の凡そ路に爾を護らしめん。彼等其手にて爾を抱へて、爾の足を石に蹶かざらしめん。爾蝮と毒蛇とを踐み、獅と大蛇とを踏まん。彼我を愛するに因て、我之を援けん、彼我の名を識るに因て、我之を衛らん。我を呼ばば、我彼に聽かん、憂の時我彼と偕にし、彼を援け、彼を榮せん、壽を以て彼に飽かしめ、我の救を彼に顯はさん。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、「アミン」。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や、光榮は爾に歸す。 三次

主憐めよ。 三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、「アミン」。

齋時期には叩拜三次。

次の句は明るい声でゆっくり歌う。

右列の詠隊

神は我等と偕にす、異邦人よ、此を知りて從へよ、神我等と偕にすればなり。

左列の詠隊、同じ句を繰り返す。

以下順序に従って、両詠隊一句ずつ交互に歌う。

地の極までも之を聴け、神我等と偕にすればなり。

権力ある者よ、從へ、神我等と偕にすればなり。

復勢を張らば、復敗られん、神我等と偕にすればなり。

謀を設けば、主は之を毀たん、神我等と偕にすればなり。

言を出さば、必成らざらん、神我等と偕にすればなり。

爾等の畏るる所は我等畏れず、驚かず、神我等と偕にすればなり。

主我が神を以て聖と爲す、彼は我が畏とならん、神我等と偕にすればなり。

我彼を頼まば必ず我を聖にせん、神我等と偕にすればなり。

我彼を望み、彼に因りて救を得ん、神我等と偕にすればなり。

視よ、我及び神が我に與へたる諸子は此に在り、神我等と偕にすればなり。

幽暗の中を行く民は大なる光を見たり、神我等と偕にすればなり。

死の蔭の地に居る者よ、光は爾等を照さん、神我等と偕にすればなり。

蓋嬰は我等の爲に生れ、子は我等に賜はりたり、神我等と偕にすればなり。

權柄は其肩に在り、神我等と偕にすればなり。

其和平は終なし、神我等と偕にすればなり。

其名は大なる議事の使者と稱へらる、神我等と偕にすればなり。

神妙なる議士と稱へらる、神我等と偕にすればなり。

大能の神、主宰、和平の君と稱へらる、神我等と偕にすればなり。

來世の父と稱へらる、神我等と偕にすればなり。

神は我等と偕にす、異邦人よ、此を知りて従へよ、神我等と偕にすればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、神我等と偕にすればなり。

今も何時も世世に、「アミン」、神我等と偕にすればなり。

兩詠隊共に 神は我等と偕にす、異邦人よ、此を知りて従へよ、神我等と偕にすればなり。

【讀詞】

主よ、日を送りて爾に感謝す、救世主よ、求む、我に罪なく暮と夜とを度らしめて、我を救ひ給へ。

光榮は父と子と聖神に歸す。

主宰よ、日を送りて爾を讚榮す、救世主よ、求む、我に誘なく暮と夜とを度らしめて、我を救ひ給へ。

今も何時も世世に、「アミン」。

聖なる者よ、日を送りて爾を讚頌す、救世主よ、求む、我に無難に暮と夜とを度らしめて、我を救ひ給へ。

無形の性のヘルワイムは息めざる歌にて爾を讃め揚げ、六翼の造物セラフイムは絶えざる聲にて爾を尊み歌ひ、天使の萬軍は聖三の歌にて爾を崇め讃む、蓋爾は萬有の先より自ら存する父にして、同無原なる爾の子を有ち、同尊なる生命の神を出し、三位の分れざるを顯し給ふ。

至聖なる童貞女・神の母と、親しく聖言を見て之に役めし者と預言者及び致命者の群よ、死せざる生命を有つに因りて、我等の爲に切に祈り給へ、我等皆苦難の中に在ればなり。願はくは我等凶悪の誘を遁れて、天使の歌を歌はん、聖、聖、聖なる三聖の主よ、我等を憐みて救ひ給へ、「アミン」。

### 信經

我信ず一の神・父・全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物を造りし主を。又信ず一の主イイススハリストス、神の獨生子、萬世の前に父より生れ、光よりの光、眞の神よりの眞の神、生れし者にて、造られしに非ず、父と一體にして、萬物彼に造られ、我等人の爲、又我等の救の爲に天より降り、聖神及び童貞女マリヤより身を取り、人と爲り、我等の爲にポンティピラトの時十字架に釘うたれ、苦を受け、葬られ、第三日に聖書に應

ひて復活し、天に升起、父の右に坐し、光榮を顯して生ける者と死せし者とを審判する爲に還來り、其國終なからんを。又信ず聖神・主・生を施す者、父より出で、父及び子と共に拜まれ、讚められ、預言者を以て嘗て言ひしを。又信ず一の聖なる公なる使徒の教會を。我認む一の洗禮を以て罪の赦を得るを。我望む死者の復活、並に來世の生命を、「アミン」。

以下の句のうち最初の「至聖なる女宰よ」は三次 其他は二次歌う。

至聖なる女宰 生神女よ、我等罪人の爲に祈り給へ。

聖天使及び天使首の全軍よ、我等罪人の爲に祈り給へ。

聖預言者イオアン、吾が主イイススハリストスの前驅授洗よ、我等罪人の爲に祈り給へ。

光明なる聖使徒、預言者、致命者、及び諸聖人よ、我等罪人の爲に祈り給へ。

克肖捧神なる我が諸神父、全世界の牧者及び教師よ、我等罪人の爲に祈り給へ。

本堂の聖人 至聖なる日本の大主教聖ニコライよ、我等罪人の爲に祈り給へ。

尊くして生命を施す十字架の敗られず量られざる聖なる力よ、我等罪人を離るる勿れ。

神よ、我等罪人を浄め給へ。

神よ、我等罪人を浄めて、我等を憐み給へ。

【聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

月水両曜日には以下の讃詞を歌う、第二調、祭日には祭日の讃詞。

ハリストス神よ、我が目を明にして、我を死の寐に寐ねざらしめ給へ、我が敵が我は彼に勝てりと曰はざらん爲なり。

光榮は父と子と聖神に歸す。

神よ、我が靈を扞ぎ衛る者となり給へ、我多くの網の中を行くに因る、仁慈の主よ、我を之より脱がれしめて救ひ給へ、爾人を愛する主なればなり。

今も何時も世世に、「アミン」。

生神・童貞女よ、我等夥しき罪ありて己の勇なきに因り、爾より生れし者に祈り給へ、蓋母の禱は多く主宰の慈憐を得べし。至浄の者よ、罪人の祈を斥くる勿れ、我等の爲に甘んじて苦を受け給ひし者は仁慈にして人を救ふことを能すればなり。

火木曜日には以下の讃詞を歌う。第八調。

主よ、爾は我が見えざる敵の眠らざるを知り給へり、我を造りし者よ、爾は亦我が不當なる肉體の弱きを知り給へり、故に我が神を爾の手に託す、爾が仁慈の翼にて我を覆ひて、死の寐に寐ねざらしめ給へ、我が靈の目を明にして、爾の聖言を以て我が樂と爲し給へ、宜き時に我を興して、爾を讚榮せしめ給へ、爾獨仁慈にして人を愛する主なればなり。

句、主吾が神よ、顧みて我に聽き給へ。

主よ、爾の審判は何ぞ畏るべき、諸天使は前に立ち、衆人は引き入れられ、記録は披

かれ、行は鞫べられ、意念は糾さるる時、我罪に於て生まれし者は何の判を受けんか、誰か我が爲に火を滅し、誰か我が爲に闇冥を照さん、主よ、我唯爾の憐を待む、爾人を慈む主なればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、

神よ、昔罪ある女に涙を賜ひし如く、我にも涙を賜ひて、我を迷の路より救ひし爾の足を沾さしめ、痛悔を以て造られし我が清き生命を香しき膏として爾に獻げしめ給へ、我も爾の慕ふべき聲、爾の信は爾を救へり、安然として往けと曰ふを聽かん爲なり。

今も何時も世世に、「アミン」。

生神女よ、我爾を辱を得ざる憑恃として救を得ん、至淨の者よ、爾の轉達を得て畏れざらん、爾の覆を鎧の如く衣、爾が有能の佑助を受けて、我が敵を驅り、之に勝たん、故に祈りて爾に呼ぶ、女幸よ、爾の祈祷を以て我を救ひ給へ、爾より身を取りし神の子の力を以て我を暗き眠より起して爾を讚榮せしめ給へ。

主憐めよ。四十次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフイムに並びなく榮え、貞操を壞らずして神言を生し實の生神女たる爾を崇讚む。

神父や主の名を以て福を降せ。

司祭 主イイスス・ハリストス我等の神や、吾が諸聖神父の祈祷に依りて我等を憐めよ。「アミン」。

### 聖大ワシリイの祝文】

主よ、主よ、我等を晝の諸の流矢より脱れしめし者よ、我等を闇冥に行く諸の害より脱れしめ給へ。我が手を擧ぐるを晩の祭として受け給へ。我等に過なく、悪に誘はれずして、夜の路を過らしめ給へ。我等を悪魔より來る諸の紛擾と畏懼より脱れしめ給へ。我等の靈に感動を與へ、我等の心に畏るべき義なる爾の審判に對ふべきことを慮らしめ給へ。我等の體を爾を畏るる畏に釘うち給へ、我等が地に在る肉慾を殺し給へ。我等が眠の静なる時にも爾の誠を見るに因りて照さるるを得しめ給へ。我等より諸の妄想と害ある慾とを除き給へ。我等を祈祷の時に興して、我が信を固め、爾の誠を行ふに進ましめ給へ、爾が獨生子の慈憐と仁慈に因りてなり。爾は彼と至聖至仁生命を施す爾の神と偕に崇め讚めらる、今も何時も世世に、「アミン」。

來れ、我等の王・神に叩拜せん。叩拜一次

來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。叩拜一次

來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。叩拜一次

### 第五十聖詠

神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法を抹し給へ。屢  
我を我が不法より洗ひ、我を我が罪より清め給へ、蓋我は我が不法を知る、我の罪は常に我が前に  
在り。我は爾獨爾に罪を犯し、悪を爾の目の前に行へり、爾は爾の審断に義にして、爾の  
裁判に公なり。視よ、我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に  
眞實のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。「イツプ」を以て我に沃げ、然せば我潔く  
ならん、我を滌へ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かせ給へ、然せば爾に折ら  
れし骨は悦ばん。爾の顔を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給へ。神よ、潔き心を  
我に造れ、正しき靈を我の衷に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我よ  
り取り上ぐることに母れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給へ。我不法の者  
に爾の道を教へん、不虔の者は爾に歸らんとす。神よ、我が救の神よ、我を血より救ひ給へ、然せ  
ば我が舌は爾の義を讚め揚げん。主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げん、  
蓋爾は祭を欲せず、欲すれば我之を獻らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は

痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なる心は、神よ、爾輕んじ給はず。主よ、爾の恵に因りて恩をシオンに垂れ、イエルサリムの城垣を建て給へ。其時に爾義の祭、獻物と燔祭とを喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠へんとす。

### 第一百一聖詠

主や、我が禱を聆き給へ。願くは我が呼ぶ聲は爾に至らん。爾の顔を我に匿す母れ。我が憂の日に爾の耳を我に傾け給へ。我が爾に呼ばんに日に速やかに我に聆き給へ。蓋我が日は煙の如く消え、我が骨は燼の如く焚かれたり。我が心は撃たれて、草の如くに枯れ、我は我が餅を食ふを忘るるに至る、我が呻吟の聲に依りて、我が骨は我が肉に貼けり。我は野に在る鵓鳩の如く荒舎にある鴟鵂の如くなれり。我が眠らずして坐するは屋蓋にある孤鳥の如し。我が敵は日々に我を誇り、我を恨む者は我を指して誓ふ。我は灰を餅の如くに食ひ、我が飲物に涙を和ふ。爾の怒と爾の憤に因てなり、蓋爾曾て我を擧げ、復我を墜せり。我が日は傾ける晷の如く、枯れしこと草の如し。唯主よ、爾は永く存す。爾を記憶するは世々に在り。爾起きて憐をシオンに垂れん、蓋之を憐む時至れり。蓋時來れり、爾の僕は其石をも愛し、其塵をも惜めばなり。諸民は主の名を畏れ、地上の諸王は爾の光榮を畏れん。蓋主はシオンを建てて、己が光榮の中に顯れん。無憑者の禱を顧みて、其願を輕んぜざらん。是れ後の世の爲に記され、未來の民は主を崇め讚めん。蓋彼は其聖なる高

き所より俯し臨み、主は天より地を鑿みたり、俘の呻吟を聞きて死の子を解かん為、彼等が主の名をシオンに傳え、其譽をイエルサリムに知らさんが爲なり、是れ諸民諸國が均く集りて、主に事へん時に在り。彼は途中に於て我が力を弱くし、我が日を短くせり。我謂へり。吾が神よ、我が日の半に於て我を取上ること毋れ。爾の年は世々に在り。主や爾初に地を基けたり、天も爾が手の造工なり。彼等は亡びん、唯爾は永く存す、此等は皆衣の如く古び、爾衣服の如く之を更へ、此等は易らん、然れども、爾は易らず。爾の年は終らざらん。爾の諸僕の子は生存へ、其裔は爾が顔の前に堅く立たん。

### 「アウデア王マナシヤの祝文」

主全能者、吾が先祖アウラアム、イサアク、イアコフ、及び其義なる裔の神よ、爾は天地と其都ての飾とを作り、爾が誠の言にて海を縛り、淵を閉ぢ、畏るべくして榮えたる爾の名を以て之を封印せり、萬物は其名を恐れ、爾が力の前に戦く、蓋爾が光榮の莊嚴なる前には誰も立つ能はず、罪人に於ける爾の厳しき怒は堪へ難し、然れども爾が契約の憐は測り難く、窮め難し、蓋爾は仁慈にして寛忍、鴻恩にして人の罪惡を憂ふる至上の主なり。爾主よ、爾が仁慈の多きに依りて、爾の前に罪を犯しし者に痛悔と赦罪とを契約し、爾が慈憐の多きに依りて、罪人の爲に痛悔を定めて救を得しめ給へり。故に爾主、義人の神よ、義にして爾の前に罪を犯さざりしアウラアム、イサアク、

イアコフの爲には痛悔を立てず、乃我罪人の爲に之を立て給へり、蓋我罪を犯ししこ  
と海の砂の數よりも多し。主よ、我が不法は數へ難し、我が不法は數へ難し、我は不義  
の多きに因りて、仰ぎて天の高きを見るに堪へず。我は多くの鐵の鎖にて屈められ、  
我が首を擧ぐる能はず、暫時も安んずる能はざるに至れり、蓋我は爾を怒らせ、悪を爾  
の前に犯し、爾の旨に循はず、爾の命を守らず、穢れし事を行ひ、誘惑を多く爲せり。  
今我が心の膝を屈めて、爾に仁慈を賜ふを祈る。主よ、我罪を犯せり、我罪を犯せり、我  
は我が不法を知る、然れども爾に祈りて求む、主よ、我を赦し給へ、我を赦し給へ、我  
を我が不法と共に亡す勿れ、永く我が悪を念ふ勿れ、我を地獄に定むる勿れ。蓋神よ、爾  
は痛悔する者の神なり、爾の仁慈を傾けて我が上に顯し、爾の大なる憐に因りて  
我不當の者を救ひ給へ、我生ける中爾を崇め讃めん、蓋天の衆軍は爾を讃め頌ふ、光榮  
は爾に世世に歸す、「アミン」。

【聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。  
至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖  
なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

〔詠〕 讀詞〕 第六の調

主よ、我等を憐めよ、我等を憐めよ、我等罪人何を言ふべきを知らず、唯此の祈禱を爾主宰に獻げて曰ふ、我等を憐めよ。

光榮は父と子と聖神に歸す。

主よ、我等を憐めよ、我等爾を恃めばなり、我等を痛く怒る勿れ、我等の不法を憶ふ勿れ、今も仁慈なるに因りて憐を垂れ、我等を諸の敵より救ひ給へ、爾は我等の神にて、我等は爾の民なり、皆爾の手の作れる者にて、爾の名を籲ぶに因る。  
今も何時も世世に、「アミン」。

讚美たる生神女よ、我等の爲に憐の門を開け、爾を恃む者に亡ぶることなく、爾に依りて禍を追るるを得しめ給へ、爾ハリストスの民の救なればなり。

主憐めよ。四十次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフィムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女

たる爾を崇讚む。

神父や、主の名を以て福を降せ。

司祭 主イイスス・ハリストス我等の神や、吾が諸聖神父の祈祷に依て我等を憐めよ。「アミ

ン」。

### 祝文

誦經 主宰神父全能者、主獨生の子イイススハリストス、及び聖神、惟一の神性、惟一の能力よ、我罪人を憐み、爾が知る所の法を以て我不當の僕を救ひ給へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、「アミン」。

來れ、我等の王・神に叩拜せん。叩拜一次

來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。叩拜一次

來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。叩拜一次

第六十九聖詠

神や、速に我を救へ、主や、速に我を助け給へ。我が靈を求むる者は、願はくは恥を得て辱を受けん、禍を我に望む者は、願はくは退けられて嘲られん。我に向て嘖々と云ふ者は、其我を辱むるに因て、願はくは退けられん。凡そ爾を求むる者は、願はくは爾の爲に喜び樂ん、爾の救を愛する者は、願はくは常に神は大なりと言はん。我は貧くして乏し、神や、速に我に格り給へ、爾は我の助けなり、我を救ふ者なり、主や、遅はる勿れ。

第四百十二聖詠

主や、我が禱を聆けよ、爾の眞實に依て我が願に耳を傾けよ、爾の義に依て我に聽き給へ。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が靈を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久く死する者の如く暗きに居らしむ、我が靈は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠きが如し。我古の日を想ひ、凡そ爾の行ひしことを考へ、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向ひ、我が靈は渴きし地の如く爾を慕う。主や、速に我に聽き給へ、我が靈は衰へたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聽かしめ給

へ、我爾を頼めばなり。主や、我に行くべき途を示し給へ、我が靈を爾に擧ればなり。主よ、我を我が敵より救ひ給へ、我爾に趨附く。我に爾の旨を行ふを教へ給へ、爾は我の神なればなり、願はくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依て我を生かし給へ、爾の義に依て我が靈を苦難より出し給へ、爾の憐を以て我が敵を滅し、凡そ我が靈を攻る者を夷げ給へ、我は爾の僕なればなり。

至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人には恵臨めり。主天の王、神父全能者よ、主獨生の子イイススハリストス、及び聖神よ、爾の大なる光榮に因りて、我等爾を崇め、爾を讃め揚げ、爾を伏し拜み、爾を尊み歌ひ、爾に感謝す。主神よ、神の羔、父の子、世の罪を任ひし者よ、我等を憐み給へ、世の諸の罪を任ひし者よ、我等の袴を納れ給へ。父の右に坐する者よ、我等を憐み給へ。爾は獨聖なり、爾は獨主イイススハリストス、神父の光榮を顯す者なればなり、「アミン」。

我夜夜に爾を讃め揚げ、爾の名を世世に崇め歌はん。

主よ、爾は世世に我等の避所たり。我曾て言へり、主よ、我を憐み、我が靈を醫し給へ、我罪を爾に得たればなり。主よ、爾に趨り附く、爾の旨を行ふを我に教へ給へ、爾は我の神、生命の源は爾に在ればなり、我等爾の光に於て光を觀ん。憐を爾を知

る者に恒に垂れ給へ。

主よ、我等を守り、罪なくして此の夜を度らせ給へ。主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、爾の名は世世に尊み歌はる、「アミン」。

主よ、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給へ。主よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓へ給へ。主宰よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に悟らせ給へ。聖なる者よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠にて我を照し給へ。主よ、爾の憐は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ。讃は爾に歸し、歌は爾に歸し、光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

【聖人或いは生神女の今回の規程】

【聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮こうえいは父ちちと子こと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに、「アミン」。

天てんに在います我等われらの父ちちよ、願ねがはくは爾なんじの名なは聖せいとせられ、爾なんじの國くには來きたり、爾なんじの旨むねは天てんに行おこなはるるが如ごとく地ちにも行おこなはれん、我わが日用にちようの糧かてを今日こんにち我等われらに與あたへ給たまへ、我等われらに債おいめある者ものを我等われら免ゆるすが如ごとく、我等われらの債おいめを免ゆるし給たまへ、我等われらを誘いざないに導みちびかず、猶なお我等われらを凶惡きようあくより救すくひ給たまへ。

司祭けだしくに 蓋國けんろうと權能こうえいと光榮なんじちちは爾父こと子せいしんと聖神せいしんに歸きす、今いまも何時いつも世世よよに。

誦經 「アミン」。

(詠) 以下の句を朗々と歌う。第六調。

ソロ 萬軍ばんぐんの主しゅよ、我等われらと偕ともにせよ、爾なんじの外ほか我が憂うれいの時ときに助たすくる者ものなし、萬軍ばんぐんの主しゅよ、我等われらを憐あわれみ給たまへ。

(詠隊) 萬軍ばんぐんの主しゅよ、我等われらと偕ともにせよ、爾なんじの外ほか我が憂うれいの時ときに助たすくる者ものなし、萬軍ばんぐんの主しゅよ、我等われらを憐あわれみ給たまへ。

ソロ 神かみを其聖所そのせいしよに讚ほめ揚あげよ、彼かれを其有力そのゆうりよくの穹蒼おおぞらに讚ほめ揚あげよ。

(詠隊) 萬軍ばんぐんの主しゅよ、我等われらと偕ともにせよ……

ソロ 其權能そのけんろうに依よりて彼かれを讚ほめ揚あげよ、其至そのいと嚴ごそかなるに依よりて彼かれを讚ほめ揚あげよ。

(詠隊) 萬軍の主よ、我等と偕にせよ…

ソロ ラッパの聲を以て彼を讃め揚げよ、琴と瑟とを以て彼を讃め揚げよ。

(詠隊) 萬軍の主よ、我等と偕にせよ…

ソロ 鼓と舞とを以て彼を讃め揚げよ、絃と簫とを以て彼を讃め揚げよ。

(詠隊) 萬軍の主よ、我等と偕にせよ…

ソロ 和聲の鉦を以て彼を讃め揚げよ、大聲の鉦を以て彼を讃め揚げよ。凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。

(詠隊) 萬軍の主よ、我等と偕にせよ…

ソロ 神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。

(詠隊) 萬軍の主よ、我等と偕にせよ…

光榮は父と子と聖神に歸す。

主よ、若し我等の爲に祈る爾の聖者と、我等を憐む爾の慈憐あらずば、我等如何で爾諸天使より恒に讚榮せらるる主を讃め歌ふを得ん、心を知る者よ、我等の靈を宥め給へ。

今も何時も世世に、「アミン」。

生神女よ、我が罪は甚多し、浄き者よ、爾に趨り附きて救を求む、獨讚美せらるる者

よ、我が病める靈を顧みて、爾の子吾が神に我が行ひし罪惡の赦を賜はんことを祈り給へ。

至聖なる生神女よ、我が生ける中我を棄つる勿れ、我を人の轉達に委ぬる勿れ、乃親ら我を護りて救ひ給へ。

神の母よ、我が恃を以て盡く爾に負はしむ、願はくは我を爾の覆の下に守り給へ。  
主憐めよ 四十次

何の日何の時にも、天にも地にも叩拜讚榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誠に向はしめ給へ、我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、「アミン」。

主憐めよ。 三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。  
ヘルワウムより尊く、セラフイムに並なく榮え、貞操を壊らずして神言を生みし實の

生神女たる爾を崇め讃む。

神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 神よ、我等に恩を被らせ、我等に福を降し、爾の顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給へ。

司祭聖エフレムの祝文を誦す。

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

「アミン」。叩拜一次

又躬拜すること六次、毎次黙誦

神よ、我罪人を浄め給へ。

後再全文を誦す、

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。貞潔と、

謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。嗚呼主王よ、我に我が罪を見、

我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。叩拜一次

【聖三祝文、至聖三者、天主經】

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖

なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行

はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を

我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給

へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

主憐めよ。十二次

【至聖生神女に祈るの祝文】エウエルゲティダ譯すれば恩女修道院の修士パウエルの原文

穢なく、誘はるるなく、朽つるなくして、至りて潔く、清き童貞女、神の嫁・女宰よ、

最榮えたる産にて神言を人に合せ、天に離れたる我が性を復天に合せし者よ、望なき者  
 の獨の望と、戦ふ者の援よ、趨り附く者の爲に備へたる衛と、衆「ハリストイアニ  
 ン」の避所なる者よ、我不潔なる罪人、汚れたる思と言と行にて己を全く不當の者  
 と爲し、悔れる心にて世の樂の奴隸と爲りし者を厭ふ勿れ、乃仁慈なる神の母たる  
 に因りて、人を愛する心を以て、我罪人不潔なる者を憐み、我が汚れたる口より爾に捧  
 ぐる祈祷を納れ、母たる勇を以て、爾の子、吾が主宰及び神に禱り給へ、彼が我が爲に  
 其仁慈の懷を開き、我が數へ難き罪過を思はずして、我を痛悔に向はしめ、其誠を行  
 ふに鍊達なる者と爲さん爲なり。隣深く、慈廣く、善を愛するに因りて、此の生に  
 於ける熱心の轉達者及び扶助者よ、爾恒に我が前に立ちて、我を攻むる諸敵を退け、我  
 を救に導き、我が堪えざる靈を臨終の時に守り、凶悪なる魔鬼の醜き像を遠く我  
 より逐ひ、畏るべき審判の日に我を永遠の苦より脱れしめ、我を爾の子吾が神の言ひ難  
 き光榮を嗣ぐ者と爲し給へ、吾が女宰、至聖なる生神女よ、願はくは我之を得ん、爾の  
 轉達と守護と、爾の子吾が主神救世主ハリストスの恩寵と仁慈に因りてなり。  
 悉くの光榮、尊貴、伏拜は彼と、彼の無原の父と、至聖至仁生命を施す彼の神とに歸  
 す、今も何時も世世に、「アミン」。

【祝文】 修士アンティオフパンデクトの作

主宰よ、我等眠らんとする者に體と靈との休息を與へ給へ。我等を罪の闇き眠と、諸の夜中の味き安逸より守り、諸慾の動くを抑へ、悪敵が我等を欺きて射る所の火箭を滅し、我が肉體の鬪を鎮め、諸の地上物體の慮を斷たしめ給へ。神よ、我等に徹醒の智慧、貞潔の思、醒めたる心、安き眠、「サタナ」より來る邪なる夢なきを賜ひ、我等を祈祷の時に興して、爾の誠を行ふに固め、爾の律を恒に我が中心に思はしめ、徹夜の讚美を我等に賜ひて、爾父と子と聖神の最尊くして嚴なる名を尊み歌ひ、崇め讚めさせ給へ、今も何時も世世に、「アミン」。

至榮なる永貞童女ハリストス神の母よ、我等の祈祷を爾の子吾が神に攜へ、爾に藉りて我等の靈を救はしめ給へ。

#### 【聖イオアンニマイの祝文】

我が憑持は父、我が避所は子、我が併幪は聖神なり、聖三者よ、光榮は爾に歸す。

司祭 ハリストス神、我等の憑持よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

詠隊 光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

主 憐めよ（三回）。 福を降せ。

この時、全員地に俯伏し、司祭は彼らに向つて以下の祝文を声に出して読む。

主宰大仁慈なる主イイススハリストス我等の神よ、至淨なる我等の女宰・生神女・

永貞童女マリヤの禱と、生命を施す尊き十字架の力と、無形なる尊き天軍、光榮なる尊き預言者・前驅・授洗イオアン、光榮にして讚美たる聖使徒、光榮なる凱旋の聖致命者、克肖捧神なる吾が諸神父、聖にして義なる神の祖父母イオアキム及びアンナ、及び爾が悉くの聖人の轉達に因りて、我等の祈禱を聆き納れ、我等に罪過の赦を賜ひ、我等を爾が翼の蔭に覆ひ、諸の仇敵を我等より遠ざけ、我等の生命を平安ならしめ給へ、主よ、我等と爾の世界とを憐み、并に我等の靈を救ひ給へ、爾は善にして人を愛する主なればなり。

終了後全員起立し、司祭は聯禱を誦する。

我が国の天皇及び国を司る者の爲に禱らん。(詠) 主憐めよ。

教會を司る我等の主教及び、ハリストスに於ける我等の悉くの兄弟の爲、

我等を恨み、及び我等を愛する者の爲、

我等を憐み、及び我等に務むる者の爲、

我等不當の者に己に代りて祈るを頼みし人人の爲、

擲となりし者の救はれん爲、

他出せる我等の諸父兄弟の爲、

海を航る者の爲、

やまい 病に臥す者の爲に禱らん。

またち 又地の果の豊ならん爲、

およ 及び 悉くの正教の「ハリストイアニン」の靈の爲に禱らん。

けいけん 敬虔の諸王、正教の諸主教、及び此の聖堂の建立者、我等の父母、已に過ぎ去りし我等  
ことごと の 悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者を記憶して、彼等の爲に  
も曰はん、

詠隊 主憐め、主憐め、主憐めよ。

司祭 主イイススハリストス我等の神よ、吾が諸聖神父の祈祷に依りて我等を憐み給へ。

詠隊 「アミン」。